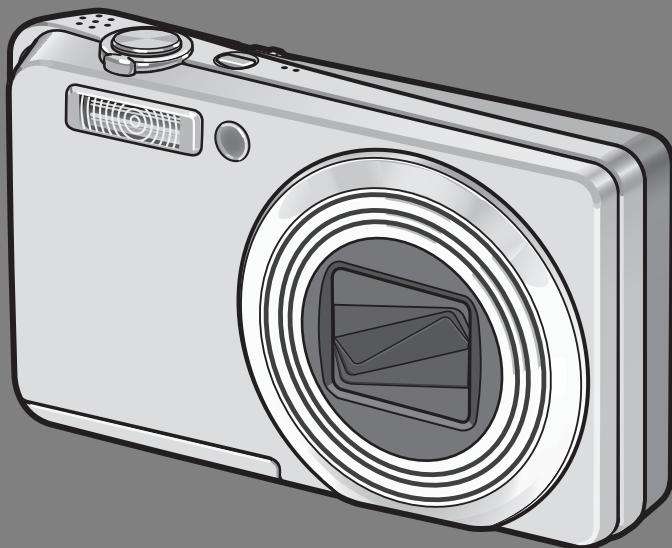


Caplio^{*} R7

RICOH

使用説明書 カメラ編



本製品のシリアル番号は、
本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社Webサイトからお願い致します。

<http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/>

なお、ご登録いただいた方には、Caplio News（ファームウェア等のサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。

本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

- | | |
|-------------|---|
| 安全上のご注意について | 安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。 |
| テスト撮影について | 必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。 |
| 著作権について | 著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。 |
| ご使用に際して | 万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。 |
| 保証書について | 本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。 |
| 電波障害について | 他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 <ul style="list-style-type: none">・テレビやラジオなどからできるだけ離す・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える・コンセントを別にする <電波障害自主規制について>
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 |

本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。

© 2007 RICOH CO.,LTD.

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。

本書は内容について万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら、巻末をご覧ください。

Microsoft、MS、Windows、Direct X、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。



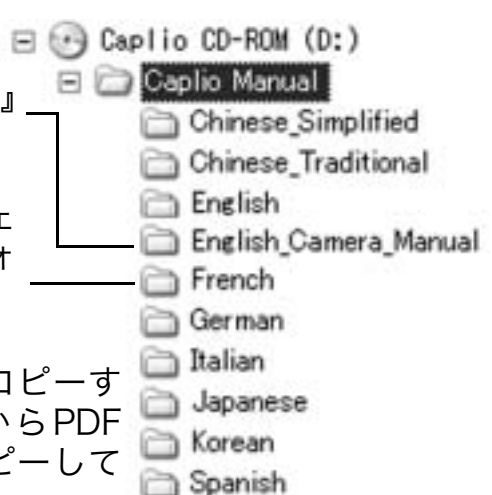
Macintosh、Power Macintosh、Mac OSは米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。

AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

会社名、および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

使用説明書の構成について

Caplio R7には、次の2種類の使用説明書が付属しています。

	<p>『使用説明書（カメラ編）』（本書）</p> <p>カメラの使いかたや機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。</p> <p>※英語版の『使用説明書（カメラ編）』はPDFファイルで、付属のCD-ROMに収録されています。</p>
	<p>『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）</p> <p>付属のソフトウェアを使って、カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。</p> <p>『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属CD-ROM内の次のフォルダに収録されています。</p> <p>英語版の『使用説明書（カメラ編）』（PDFファイル）</p> <p>各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。</p> <p>使用説明書をハードディスクにコピーするには、それぞれのフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。</p> 

本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェア Irodio Photo & Video Studio が付属しています。Irodio Photo & Video Studio の使いかたについては、Irodio Photo & Video Studio のヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studio についてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター

TEL：06-6633-3900

FAX：06-6633-2992

〒556-0011

大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F

受付時間：月曜日～日曜日

10：00～17：00

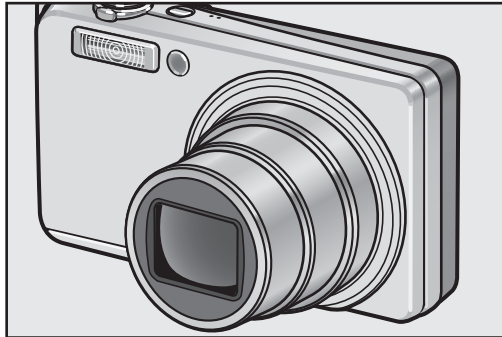
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）

また以下のページで、Irodio Photo & Video Studio の最新情報が閲覧できます。

<http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html>

このカメラでできること

本マニュアル内のイラストは実物と形状が違う場合があります。



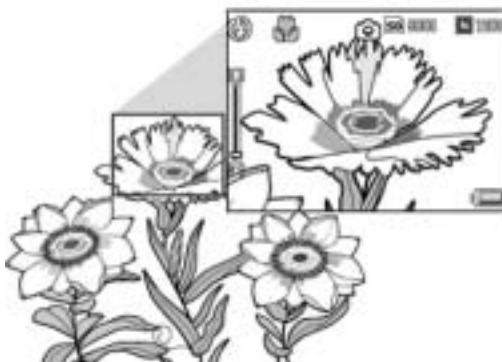
7.1倍高倍率ワイドズームレンズを搭載

薄型コンパクトボディに、28～200mm*の広い撮影領域をカバーする光学7.1倍ワイドズームレンズを搭載。室内から風景まで、さまざまな撮影シーンに対応できます。
*35mm判カメラ換算値です。



手ブレ補正機能で、手ブレを抑えた安心撮影 (P.93)

手ブレ補正機能を装備。室内や夜景などの手ブレしやすい場面でも、手ブレを抑えた撮影ができます。



1cmマクロ対応 (P.34)

望遠時25cm、広角時20cm対応近接フラッシュ (P.35)

被写体まで1cmの超アップで撮影可能な接写機能を搭載。
フラッシュは望遠時25cm、広角時20cmの近さまで対応。光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。



被写体の顔を自動的に認識して撮影するフェイスモード搭載 (P.38)

被写体の顔に自動的にピントを合わせ、露出、ホワイトバランスを最適に調整して撮影することができます。



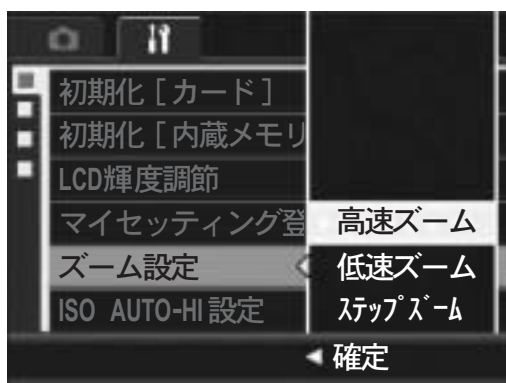
簡単に自分好みの撮影ができるマイセッティングモード搭載 (P.37)

オリジナルの設定を2種類登録することができます。モード切替スイッチをMYに合わせると、登録したオリジナルの設定で撮影することができます。



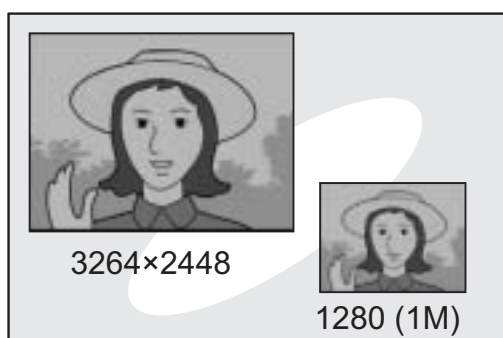
撮影画像の明度や色味もカメラで簡単補正 (P.104、105)

撮影した静止画の明度や色味をカメラで調整し、新たなファイルとして記録することができます。



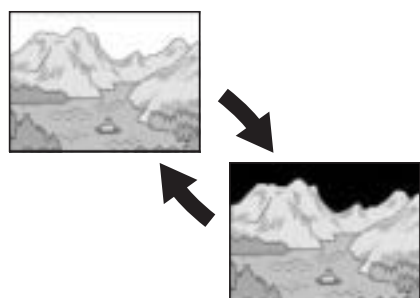
ズームの設定も自分好みに (P.135)

ズームの速さを変更したり、焦点距離を固定したりすることができます。



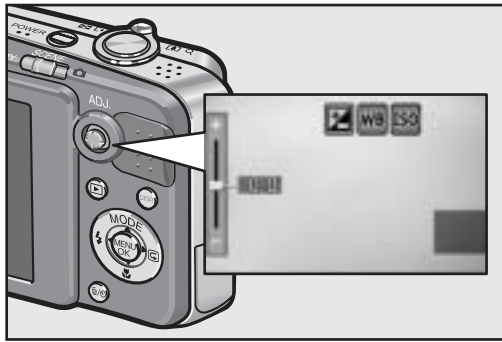
2種類の画像サイズで撮影するデュアルサイズ記録機能 (P.94)

1度の撮影でオリジナルサイズの静止画と画像サイズの小さいサブファイル2枚を同時に記録することができます。



ハイライト表示機能 (P.56)

クイックレビューや再生モード時にDISP.ボタンを押すと、ハイライト表示画面に切り替わり、撮影した画像のハイライト部分を確認することができます。



ADJ. (アジャスト) ボタンでカメラ操作がより簡単に (P.60)

通常のボタン操作を短縮させてくれるのがADJ.ボタン。ADJ.ボタンに好みの機能を登録しておけば、ADJ.ボタンを上下・左右にたおすだけで簡単に設定ができます。



多数のファイルを簡単操作で一括削除 (P.52)

ファイル範囲を指定して、不要なファイルを簡単に削除することができます。



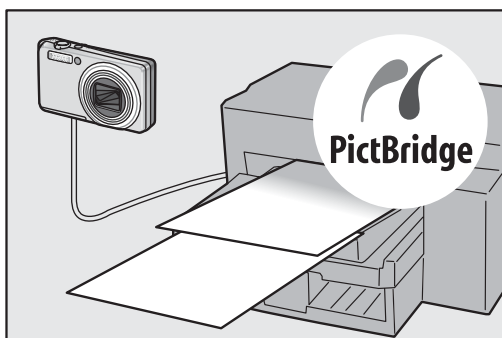
1秒間に30フレーム/15フレームの高画質・音声付き動画 (P.96)

640×480ピクセルの高画質、1秒間に30フレームのなめらかな音声付き動画が撮影できます。



ゆがみを簡単に補正する斜め補正モード搭載 (P.39)

斜めから撮影した四角い被写体を、正面から撮影したように補正する「斜め補正モード」を搭載。簡単なボタン操作で補正ができ、掲示板や展示パネル、名刺など、さまざまな被写体の撮影に活躍します。



パソコンなしでも印刷できるダイレクトプリント機能 (P.119)

カメラとダイレクトプリント対応プリンターを直接USBケーブルで接続して、画像を転送。パソコンを使わずに手軽に画像が印刷できます。

帳票印刷や、カメラメモ印刷も可能です。

もくじ

使用説明書の構成について.....	1
このカメラでできること	2
もくじ	5

基本編

11

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する	12
カメラの各部の名称.....	14
モード切替スイッチの使い方	16
液晶モニターの表示.....	17
準備をする.....	20
電池について.....	20
SDメモリーカード（市販）について.....	21
リチャージャブルバッテリーを充電する	23
リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをセットする.....	24
電源をオン/オフする.....	26
日時を合わせる	27
撮影する	28
カメラの構えかた	28
撮る.....	30
ズームを使って撮る.....	33
接写で撮る（マクロ撮影）.....	34
フラッシュを使って撮る	35
マイセッティングモードで撮る	37
撮影シーンに合わせて撮る	38
☺セルフタイマーを使う	44
再生する	45
撮った静止画をすぐ確認する（クイックレビュー）.....	45
撮った静止画を見る.....	46
3コマ表示／一覧表示する（サムネイル表示）.....	48
静止画を拡大表示する.....	50
削除する	51
1ファイルを削除する	51
すべてのファイルを削除する.....	52
複数のファイルを一度に削除する	52
DISP.ボタンで画面表示を切り替える.....	55
画面の輝度を最大にする	57
ヒストグラム表示について	57

目的に応じて必要なときにお読みください

1 いろいろな撮影 60

ADJ.ボタンの機能	60
シーンモード時に設定可能な機能について	61
文字濃度を変える (シーンモード)	62
AFターゲットを移動する (マクロ)	63
撮影設定メニューについて	64
メニューの操作方法	66
画質モード/画像サイズを選ぶ (画質・サイズ)	67
ピント合わせの方式を変える (フォーカス)	69
手動でピントを合わせて撮影する (MF)	70
測光方式を変える (測光方式)	72
静止画の質感を変える (シャープネス)	73
連写で撮る (連写/S連写/M連写)	74
S連写/M連写した静止画を拡大して見る	77
色の濃さを設定する (色の濃さ)	78
露出を変化させて連続撮影する (オートブラケット)	79
ホワイトバランスを変化させて連続撮影する (WB-BKT: ホワイトバランスブラケット)	80
色を変えて連続撮影する (CL-BKT: カラーブラケット)	82
長時間露光を設定する (長時間露光)	83
一定間隔で自動撮影する (インターバル撮影)	84
静止画に日付を入れるには (日付入れ撮影)	86
露出を変える (露出補正)	87
自然光や照明光を使う (ホワイトバランス)	88
ホワイトバランスを手動設定する (手動設定)	89
撮影感度を設定する (ISO感度)	90
シャッタースピードを制限する (スローシャッター速度制限)	92
手ブレ補正機能で手ブレを防ぐ (手ブレ補正)	93
サブファイル付き画像を撮影する (デュアルサイズ記録)	94
撮影設定メニューの設定を元に戻す (撮影設定初期化)	95

2 動画を撮影・再生する 96

📹動画を撮影する	96
フレーム数を設定する (フレームレート)	97
動画を再生する	99

3 いろいろな再生 100

再生設定メニューについて.....	100
メニューの操作方法.....	100
画像を回転させる（回転）.....	102
画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）.....	103
画像の明度、コントラストを補正する（階調補正）.....	104
画像の色味を補正する（色調補正）.....	105
斜めから撮影した画像を補正する（斜め補正）.....	106
削除できないように設定する（プロテクト）.....	108
1ファイルをプロテクトする.....	108
すべてのファイルをプロテクトする.....	109
複数のファイルを一度にプロテクトする.....	110
自動的に順に表示する（スライドショー）.....	111
内蔵メモリーの内容をカードへコピーする （CARDへコピー）.....	112
プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）.....	113
表示している静止画にDPOF設定する.....	113
すべての静止画にDPOF設定する.....	114
複数の静止画にDPOF設定する.....	115
削除したファイルを復元する（ファイル復元）.....	116
テレビの画面で見る.....	117

4 ダイレクトプリントで印刷する 119

ダイレクトプリント機能について.....	119
カメラとプリンターを接続する.....	120
静止画を印刷する.....	121
1枚またはすべての静止画を印刷する.....	121
複数の静止画を印刷する.....	123
帳票印刷する.....	125
帳票印刷にカメラメモを印字する.....	126

5 カメラの設定を変える 127

セットアップメニューについて.....	127
セットアップメニューの操作方法.....	128
SDメモリーカードを使えるようにする（初期化 [カード]）.....	130
内蔵メモリーを初期化する（初期化 [内蔵メモリー]）.....	131
液晶モニターの明るさを調節する（LCD輝度調節）.....	132
自分好みの設定を登録する（マイセッティング登録）.....	133
ズームの設定を変更する（ズーム設定）.....	135
ISO AUTO-HI の設定を変える（ISO AUTO-HI 設定）.....	136

デュアルサイズ記録のサイズを変える （サブファイルサイズ）	137
オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）	138
ブザー音の設定を変える（ブザー音）	139
ブザー音の音量を変える（操作音音量設定）	140
画像確認時間を変える（画像確認時間）	141
オートリサイズズームを使う（デジタルズーム切替）	142
ADJ.ボタンに機能を設定する（ADJ.ボタン設定）	144
AF補助光の設定を変える（AF補助光）	145
アイコンを大きく表示する（撮影アイコン拡大）	146
ファイル名の設定を変える（CARD連続NO.）	147
日付・時刻を設定する（日時設定）	149
表示言語を変える（Language / 言語）	150
テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）	151

6 画像をパソコンに取り込む 152

Windowsをご使用の場合	152
Caplio Software CD-ROMの構成	153
Caplio Software CD-ROMを使うために必要な環境	156
画像の一括取り込みや編集を行うためのソフトウェアを インストールする	157
その他のソフトウェアをインストールする	160
ソフトウェアを削除（アンインストール）する	164
RICOH Gate Laを使用して画像を一括取り込みする	166
RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む	167
カメラとパソコンの接続を解除する	169
Macintoshをご使用の場合	170
画像をパソコンに取り込む	170
カメラとパソコンの接続を解除する	171

7 付録 172

お困りのときは	172
エラーメッセージが表示されたら	172
カメラ本体のトラブル	173
ソフトウェア / パソコンのトラブル	178
主な仕様	180
内蔵メモリー / SDメモリーカードの記録可能枚数	182
別売り品について	183
電源オフで設定値が初期値に戻る機能	184
シーンモードについて	186
シーンモードの撮影設定メニュー	187

海外でお使いのときは	188
使用上のご注意	189
お手入れと使用／保管場所について	190
アフターサービスについて	191
索引	192

基本編

はじめてお使いのときは
必ずお読みください

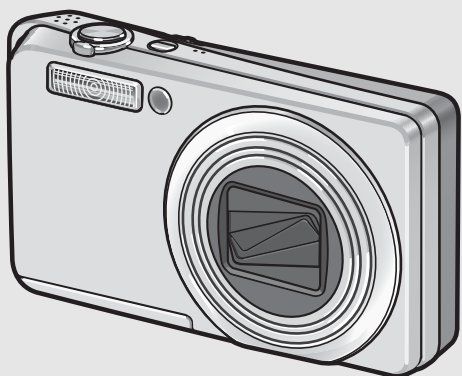
パッケージを確認する	12
カメラの各部の名称.....	14
モード切替スイッチの 使い方	16
液晶モニターの表示.....	17
準備をする	20
撮影する	28
再生する	45
削除する	51
DISP.ボタンで 画面表示 を切り替える	55

パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。

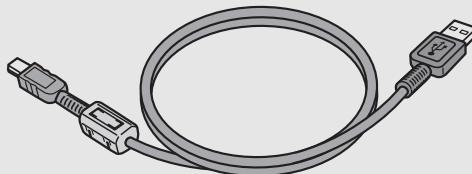
Caplio R7

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。



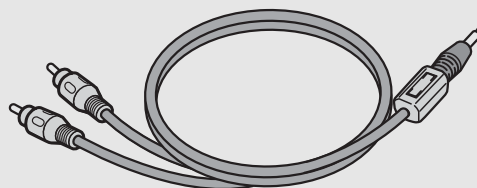
USBケーブル (mini Bタイプ)

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。

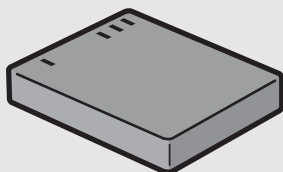


AVケーブル

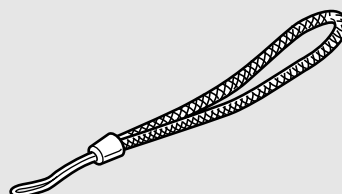
テレビで画像を見るときに使用します。



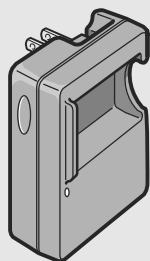
リチャージャブルバッテリー



ハンドストラップ



バッテリーチャージャー



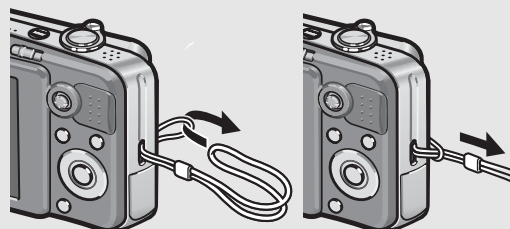
はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

ハンドストラップのつけかた

ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。



使用説明書（カメラ編）



(本書)

安全上のご注意



Caplio Software CD-ROM

ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。

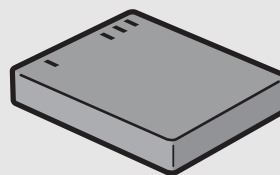


メモ

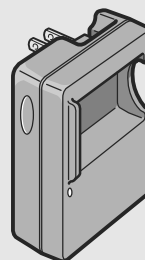
別売り品についての最新情報は、弊社ホームページ (<http://www.ricoh.co.jp/dc>) をご覧ください。

別売り品について

リチャージャブルバッテリー (DB-70)



バッテリーチャージャー (BJ-7)



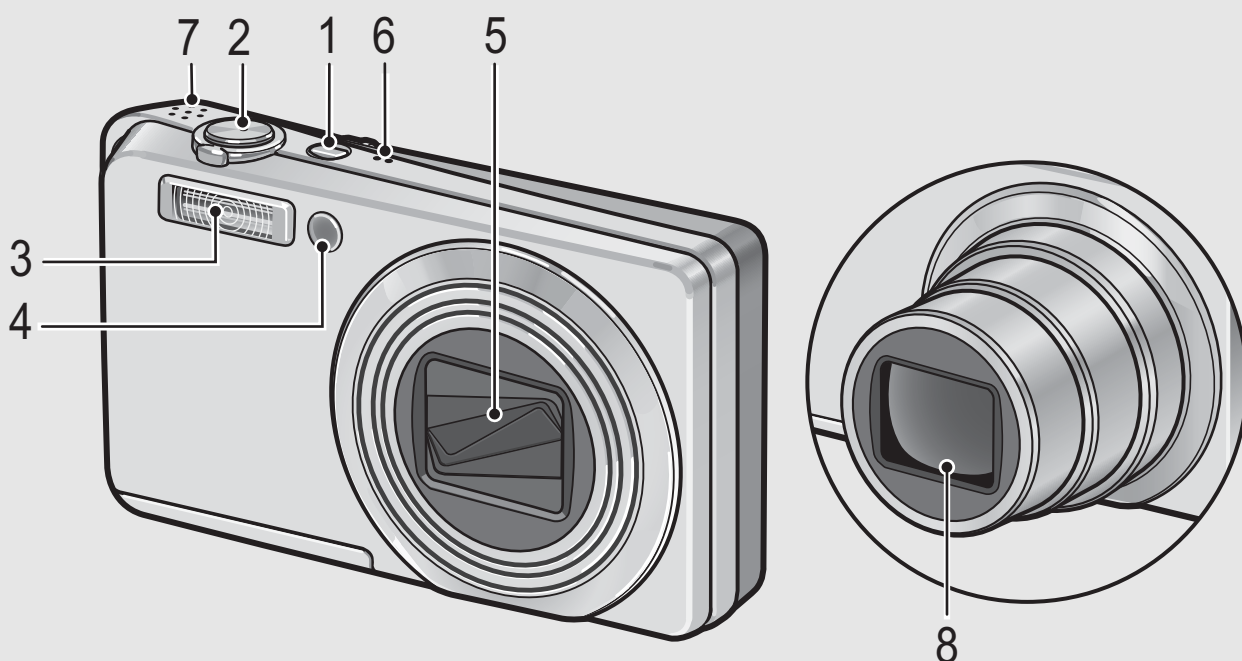
ソフトケース (SC-70、SC-70R)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

カメラの各部の名称

カメラ本体

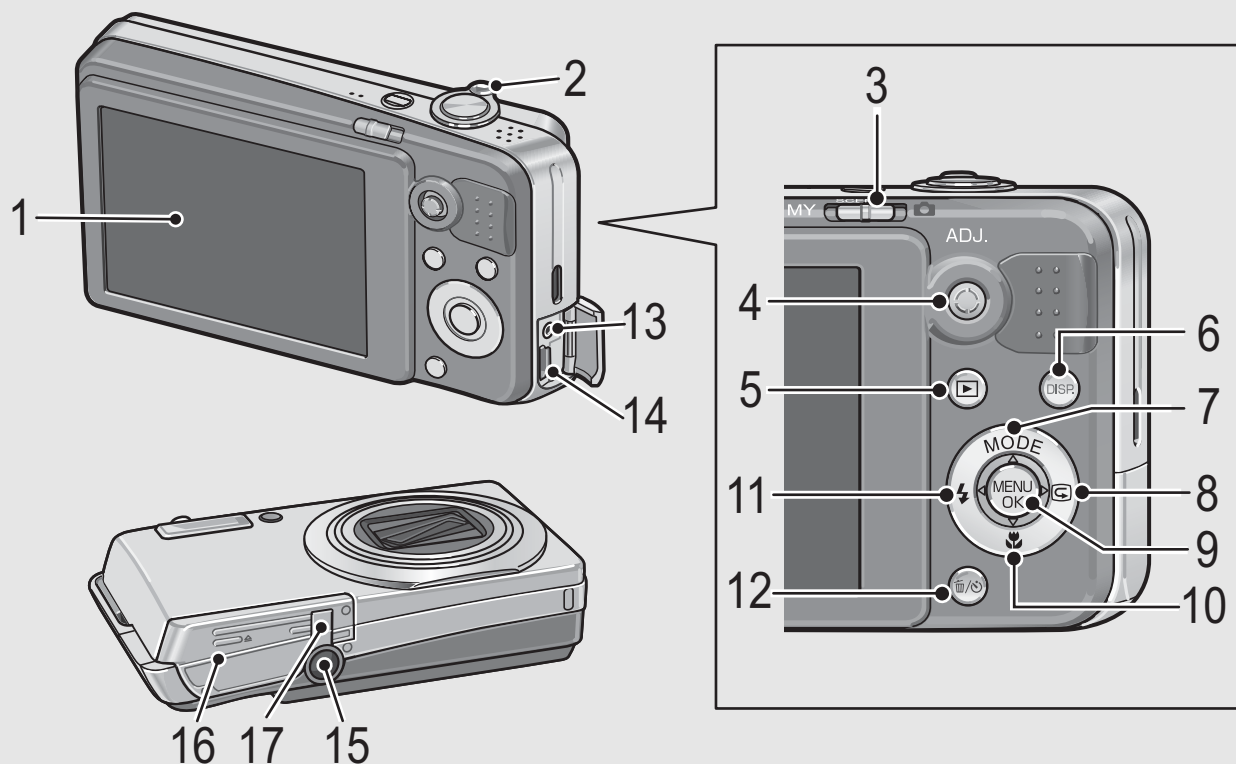
前面



はじめてお使いのときは必ずお読みください

	名称	参照先
1	POWER (電源) ボタン	P.26
2	シャッターボタン	P.30
3	フラッシュ発光部	P.35
4	AF補助光/セルフタイマーランプ	P.44、145
5	レンズカバー	—
6	マイク	—
7	スピーカー	P.99
8	レンズ	P.28

背面



	名称	参照先
1	液晶モニター	P.17
2	ズームレバー (望遠) / (広角) Q (拡大表示) / (サムネイル表示)	P.33、48、50
3	モード切替スイッチ	P.16、37、38
4	ADJ.ボタン	P.60
5	▶ (再生) ボタン	P.46
6	DISP.ボタン	P.55
7	▲ / MODE ボタン*	P.37、38
8	▶ / (クイックレビュー) ボタン	P.45
9	MENU / OK ボタン	P.66、100、128
10	▼ / (マクロ) ボタン	P.34
11	◀ / (フラッシュ) ボタン	P.35
12	☒ (削除) / (セルフタイマー) ボタン	P.51、44
13	AV出力端子	P.117
14	USB端子	P.120、166
15	三脚ネジ穴	P.180
16	バッテリー / カードカバー	P.24
17	電源 (DC入力) ケーブルカバー	—

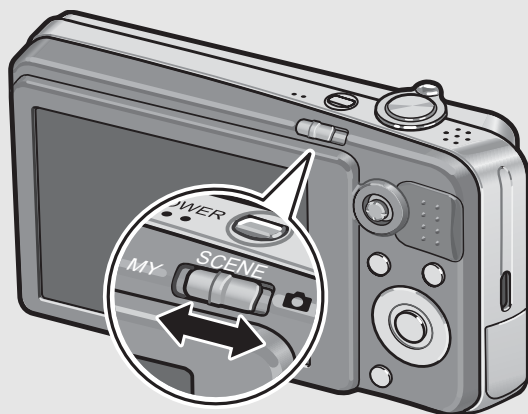
* MODE ボタンは、シーンモード時またはマイセッティングモード時のみ有効です。

はじめてお使いのときは必ずお読みください


モード切替スイッチの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モード切替スイッチを切り替えてから行います。

1 モード切替スイッチを使用する機能のマークに合わせる



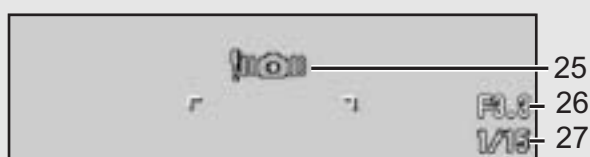
モード切替スイッチのマークと働き

マーク	機能	働き	参照先
MY	マイセッティングモード	[マイセッティング登録]で登録した設定で撮影することができます。	P.37
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。また、音声付動画を撮影します。	P.38
	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。	P.30

はじめにお使いのときは必ずお読みください

液晶モニターへの表示

撮影するときの画面



静止画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュ	P.35	14	測光方式	P.72
2	マクロ撮影	P.34	15	シャープネス	P.73
3	セルフタイマー	P.44	16	色の濃さ	P.78
4	シーンモード マイセッティング モード	P.38 P.37	17	露出補正	P.87
			18	ISO感度	P.90
			19	日付入れ撮影	P.86
5	モードの種類	P.16、38、 96	20	インターバル撮影	P.84
			21	長時間露光	P.83
6	記録先	P.21	22	ヒストグラム表示	P.57
7	残り記録枚数	P.182	23	手ブレ補正	P.93
8	画質	P.67	24	電池マーク	P.19
9	画像サイズ	P.67	25	手ブレ注意マーク	P.29
10	ズームバー	P.33	26	絞り値	P.180
11	フォーカス	P.69	27	シャッタースピード	P.92
12	オートブラケット	P.79、80、 82	28	フレームレート	P.97
			29	残り記録時間	P.182
13	ホワイトバランス	P.88	30	記録時間	P.182

はじめてお使いのときは必ずお読みください

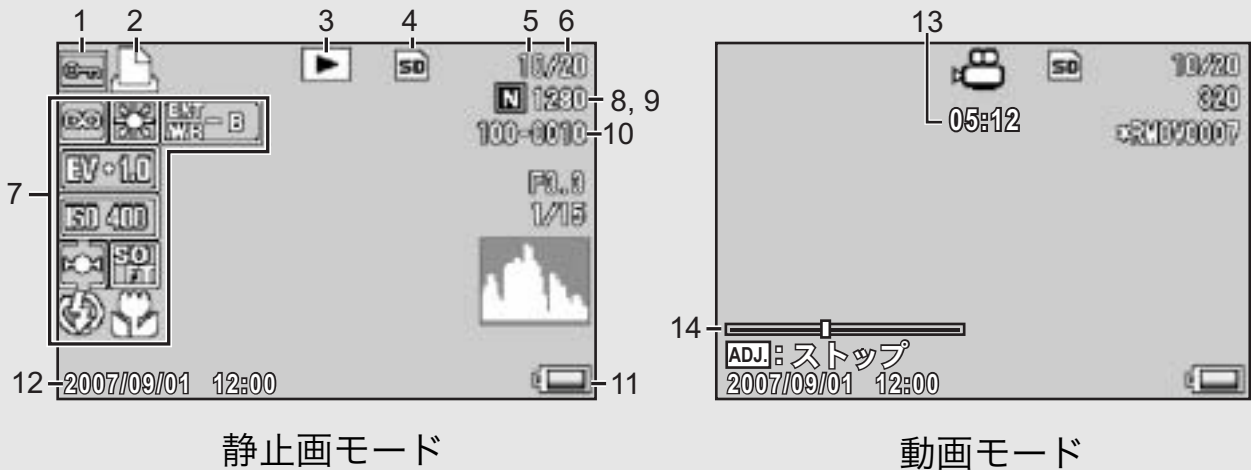


メモ

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

はじめにお使いのときは必ずお読みください

再生するときの画面



	名称	参照先		名称	参照先
1	プロテクト	P.108	8	画質	P.67
2	DPOF	P.113	9	画像サイズ	P.67
3	モードの種類	—	10	ファイル番号	—
4	再生元	P.47	11	電池マーク	P.19
5	再生ファイル数	—	12	撮影した日付	P.86、 149
6	総ファイル数	—	13	記録時間または経過時間	—
7	撮影時（記録時）の設定	—	14	インジケーター	—

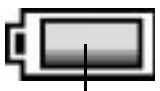




メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

電池の残量表示

液晶モニターの下右に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
 緑色	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の容量が減りはじめました。充電をお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電してください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

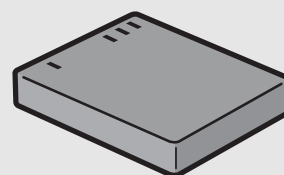


メモ

- すでに電源をオンにした場合は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.26をご覧ください。

電池について

本カメラでは、専用のリチウムイオン電池「リチャージャブルバッテリー DB-70」（付属）を使用します。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。



撮影可能枚数

撮影可能枚数（電池の持続）の目安：約300枚

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。（温度23°C、液晶モニターオン、30秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影するごとに電源をオフ/オンを繰り返す）
- シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます。（P.55）
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間（枚数）が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をおすすめします。



注意

- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品（DB-70）をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。

SDメモリーカード（市販）について

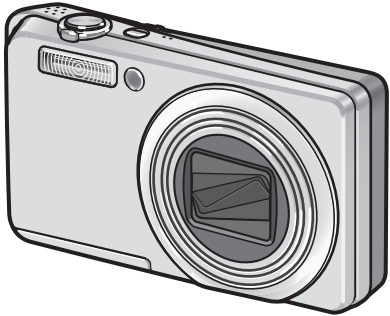
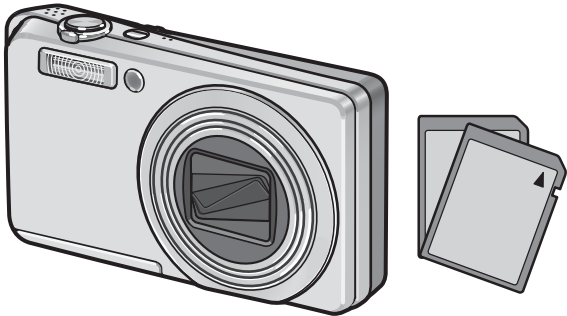
記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーまたはSDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、24MBです。

静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。



記録先について

SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

<p>本体のみのとき</p> 	<p>SDメモリーカードがセットされているとき</p> 
<p>内蔵メモリーに記録</p>	<p>SDメモリーカードに記録</p>



注意

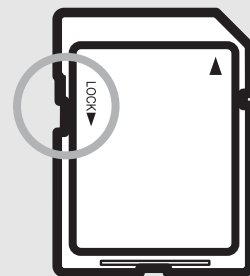
- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。



誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。

なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。



はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.47をご覧ください。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、SDメモリーカードの容量によって異なります。(P.182)
- 新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。(P.130)
- 内蔵メモリーに記録された画像を、SDメモリーカードにコピーすることができます。(P.112)
- 本カメラ以外で使用したSDメモリーカードを使用する場合は、必要なデータを保存の上、初期化してからお使いください。(P.130)
- SDHCメモリーカード（4GB）も使用できます。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

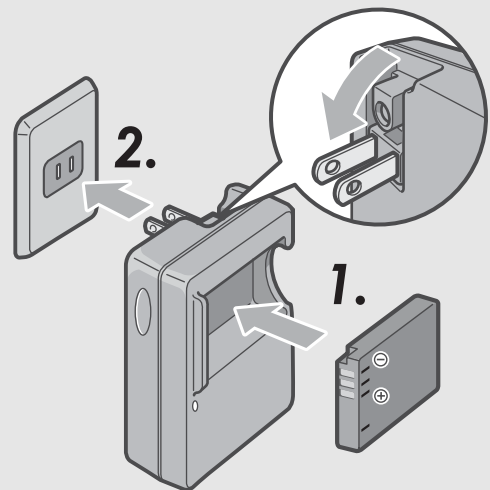


注意

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

- 充電には専用バッテリーチャージャー (BJ-7) をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。



充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常 (バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください。)

- バッテリーの充電時間の目安は、以下のとおりです。バッテリーの残量により充電時間は異なります。

リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-70	約100分 (25°C)

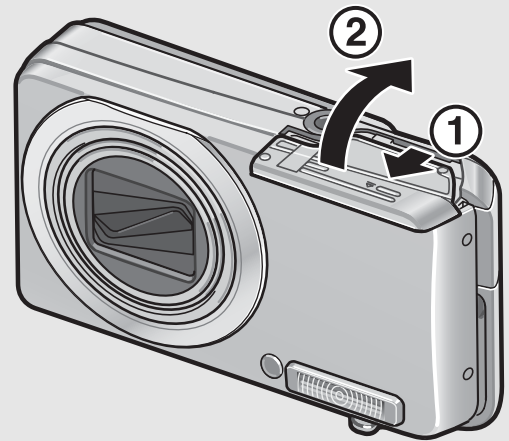
はじめてお使いのときは必ずお読みください

リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをセットする

リチャージャブルバッテリーを充電したら、リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをカメラにセットします。すでに電源をオンにした場合は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

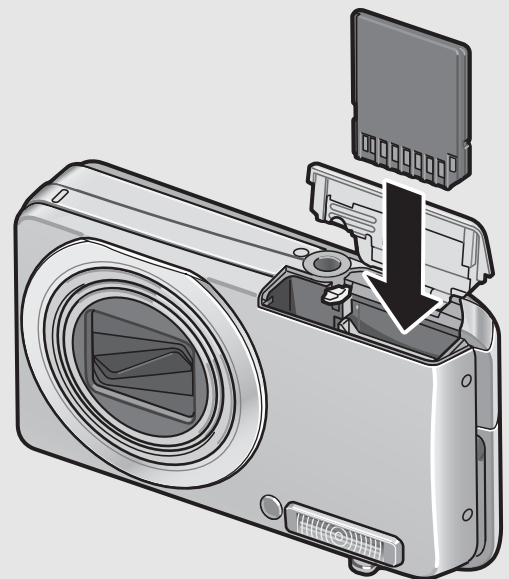
はじめにお使いのときは必ずお読みください

1 バッテリー／カードカバーをスライドさせて開ける



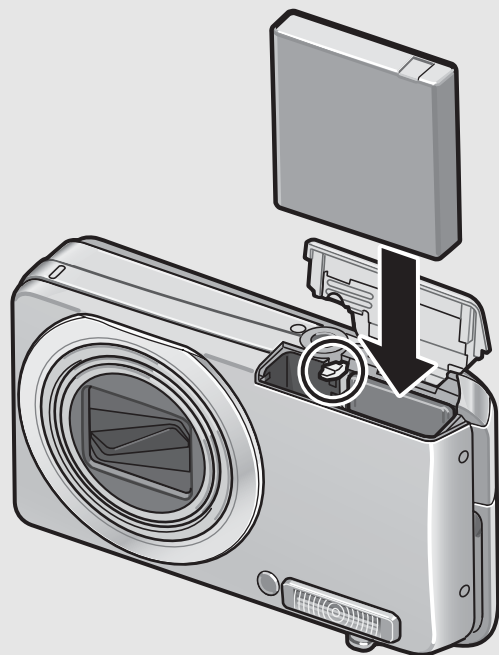
2 SDメモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。

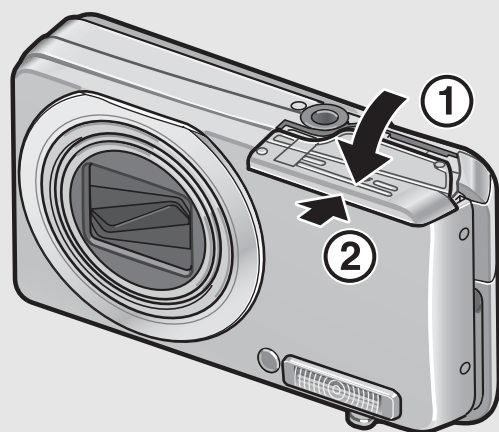


3 リチャージャブルバッテリーを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。



4 バッテリー／カードカバーを閉じて、スライドさせる



はじめてお使いのときは必ずお読みください

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには

バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。リチャージャブルバッテリーをロックしているツメをずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

SDメモリーカードを取り出すときには

バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。SDメモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとSDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。



注意

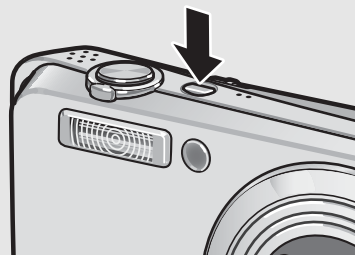
長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

電源をオン/オフする




電源をオンにする

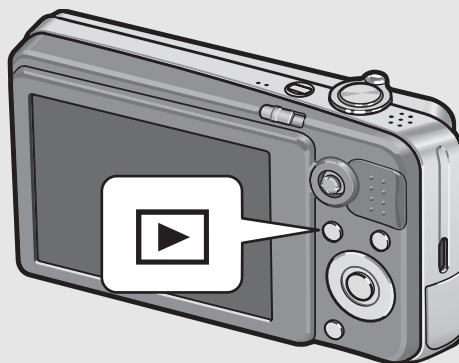
1 POWER (電源) ボタンを押す

- 起動音が鳴り、液晶モニターが点灯します。



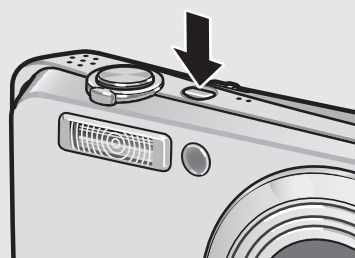
再生モードで使うときには

-  (再生) ボタンを約1秒以上押し続けると、再生モードの状態では電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。
-  (再生) ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度  (再生) ボタンを押すと、記録モードになります。



電源をオフにする

1 POWER (電源) ボタンを押す



注意

フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くなる場合があります。



オートパワーオフについて

- 設定した時間内にカメラのボタンを押さなかった場合は、節電のために自動的に電源がオフになります (オートパワーオフ)。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。(P.138)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ▲▼◀▶ ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼で数値を変更し、◀▶で項目を移動します。



出荷時の設定

2 [書式] で日時の書式を選ぶ

- ▲▼で書式を選択します。

3 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されます。



メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、十分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。(P.149)
- 日時を入れて撮影することができます。(P.86)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

撮影する

準備ができれば、さっそく撮影してみましょう。

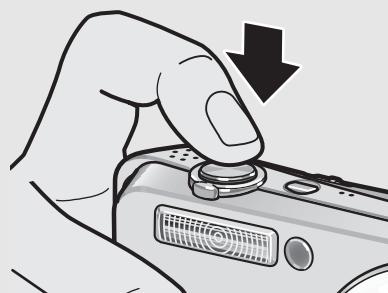
カメラの構えかた

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

- 1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける



- 2 シャッターボタンに指を当てる



注意

- 指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。
- レンズユニットを手で持たないように注意してください。ズーム、ピント合わせが正常に動作しません。


はじめてお使いのときは必ずお読みください








手ブレを防ぐには -----

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画を鮮明に撮影できません（手ブレ）。

次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

- フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
- ズームを使って撮る
- 長時間露光を設定して撮る（ P.83）

液晶モニターにマークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

- 手ブレ補正機能を使う（ P.93）
- フラッシュを [AUTO] または [強制発光] にする（ P.35）
- ISO感度を上げる（ P.90）
- セルフタイマーを使う（ P.44）

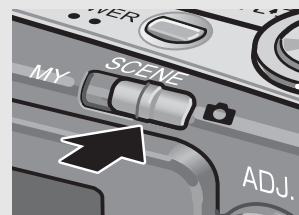
はじめてお使いのときは必ずお読みください

撮る

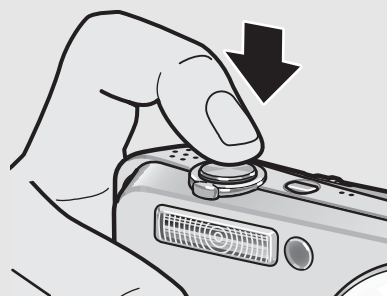
シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

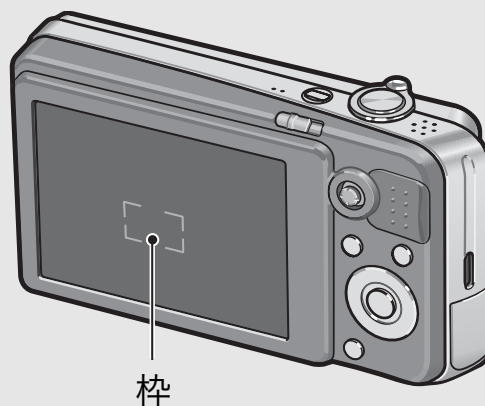
- 1 電源をオンにして、モード切替スイッチを📷に合わせる



- 2 液晶モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする

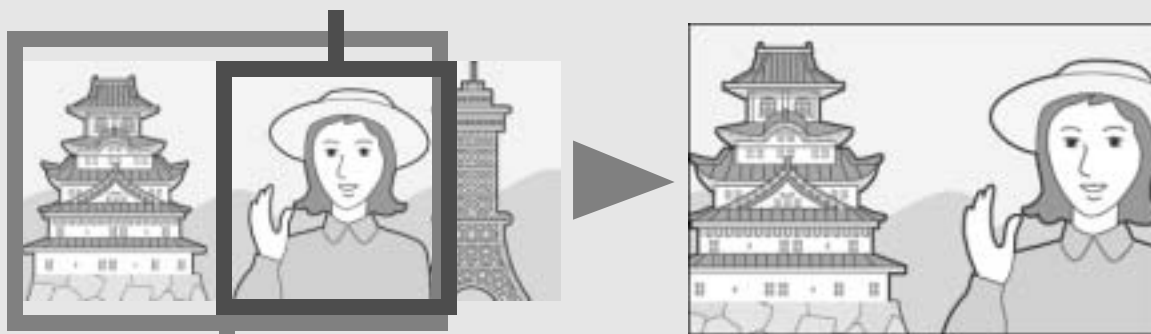


- ピント合わせが行われ、露出とホワイトバランスが固定されます。
- ピントが合わない場合は、液晶モニター中央部に赤い枠が表示されます。
- 最大9点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。



3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

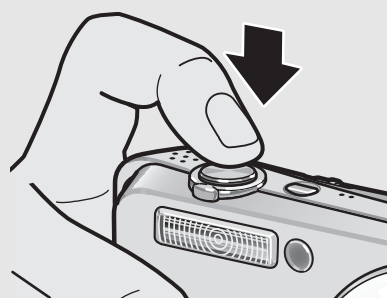
ピントを合わせたい被写体



撮影したい範囲

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が液晶モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。



ピント合わせについて

ピント合わせの状態は、液晶モニター中央の枠の色で確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色
ピント合わせ前	白
ピントが合ったとき	緑
ピントが合わなかったとき	赤


- 次のような被写体は、ピントを合わせられないことがあります。
 - コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
 - 横線だけで、凹凸のないもの
 - 動きの速いもの
 - 暗いところのもの
 - 強い逆光および反射光があるもの
 - 蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離にある、違う被写体にピントを固定してから撮影してください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンは静かに押しましょう。
- マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。また、手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレを起きにくくすることができます。(P.93)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

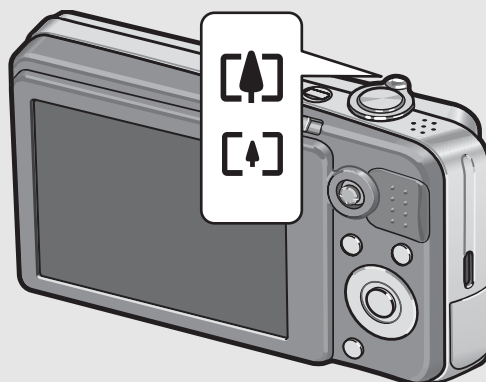
ズームを使って撮る

ズームレバーを $\left[\blacktriangle \right]$ （広角）側に回すと、広い範囲を写すことができます。
ズームレバーを $\left[\blacktriangle \right]$ （望遠）側に回すと、被写体を大きく写すことができます。



1 撮影できる状態で、ズームレバーを $\left[\blacktriangle \right]$ （望遠）側や $\left[\blacktriangle \right]$ （広角）側に回す

- ・液晶モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。



2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る



デジタルズームを使う

デジタルズームを行うと、ズームレバーを $\left[\blacktriangle \right]$ （望遠）側に回して設定した拡大倍率（最大7.1倍）より、さらに被写体を拡大できます（最大4.8倍まで）。

デジタルズームを使うには、ズームバー表示が $\left[\blacktriangle \right]$ （望遠）側の端まできたらいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを $\left[\blacktriangle \right]$ （望遠）側に回し続けます。

[画質・サイズ] を3264×2448に設定している場合は、[デジタルズーム切替] で [オートリサイズ] を選択することもできます。（ P.142 ）



メモ

- ・ズームの速度を変えることができます。（ P.135 ）
- ・ズームの焦点距離を7段階に固定することができます。（ P.135 ）

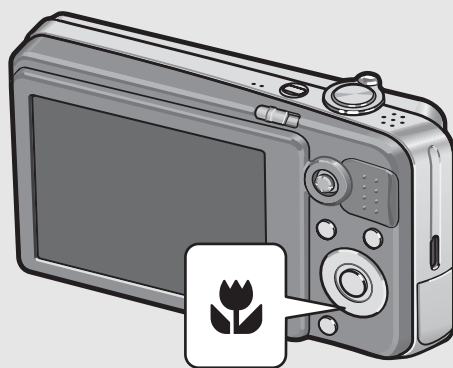
はじめてお使いのときは必ずお読みください

接写で撮る（マクロ撮影）

🌸（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます（マクロ撮影）。
最短約1cmまで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 撮影できる状態で、🌸（マクロ）ボタンを押す

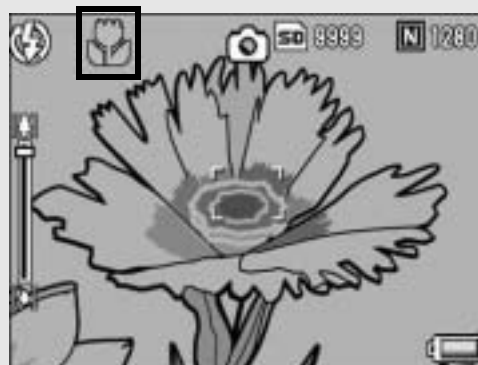
- ・液晶モニター中央に一瞬🌸が大きく表示され消えた後、上部に🌸が表示されます。



2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

- ・マクロモードを解除するには、もう一度🌸（マクロ）ボタンを押します。



メモ

- ・ズームを使用しているときには、次の距離までのマクロ撮影ができます。







広角時	約1cm	撮影範囲：約25×19mm
望遠時	約25cm	撮影範囲：約61×46mm (デジタルズーム未使用時)
		撮影範囲：約12.7×9.6mm (デジタルズーム4.8倍時)

- ・マクロ撮影では、カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけでフォーカスロックができるAFターゲット移動機能が使用できます。三脚を使った撮影時に便利です。(P.63)
- ・マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの「ズームマクロ」を使います。(P.38)

フラッシュを使って撮る


⚡ (フラッシュ) ボタンを使うと、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、[発光禁止]に設定されています。

フラッシュモードの種類

	発光禁止	フラッシュを発光しません。
	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光	フラッシュを必ず発光します。
	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
	ソフト発光	フラッシュの発光量を抑えます。マクロ撮影等の近距離撮影に適しています。

フラッシュの光が届く範囲(ISO感度が[AUTO]の場合) P.90

広角時	約0.2～3.0m (レンズ先端より)
望遠時	約0.25～2.0m (レンズ先端より)

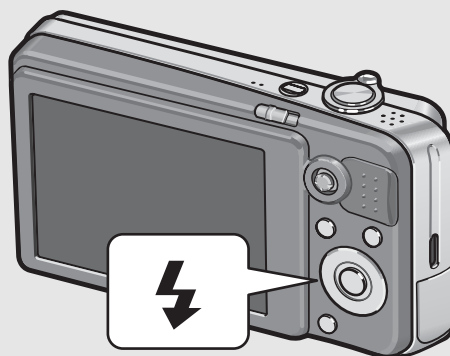
1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 ⚡ (フラッシュ) ボタンを押す

- ・ 液晶モニターにフラッシュモード一覧が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、フラッシュモードを選ぶ

- ・ 液晶モニター左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- ・ フラッシュ充電中は、液晶モニター左上のフラッシュモードのマークが点滅します。充電が完了するとマークが点灯し、撮影が可能になります。



はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ


- ⚡ (フラッシュ) ボタンを押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットでは、発光禁止になります。
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。
- ISO感度を400より低くすると、フラッシュの光が届く距離は短くなります。

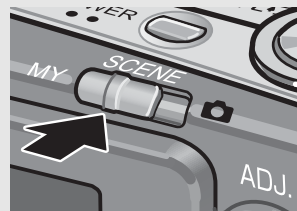
はじめてお使いのときは必ずお読みください

マイセッティングモードで撮る



[マイセッティング登録] で登録した設定 (P.133) で撮影します。[マイセッティング1] に切り替えると [設定1] に登録した設定で、[マイセッティング2] に切り替えると [設定2] に登録した設定で撮影することができます。

1 モード切替スイッチを MY に合わせる

- 撮影できる状態になり、 が液晶モニター上部に表示され、[マイセッティング1] の設定になります。



2 マイセッティングを変更したい場合は、MODEボタンを押す

- 液晶モニター中央に一瞬  が表示され消えた後、上部に  が表示されて [マイセッティング2] に切り替ります。
- もう一度 MODE ボタンを押すと、[マイセッティング1] に切り替ります。




3 シャッターボタンを押して撮影する

はじめてお使いのときは必ずお読みください


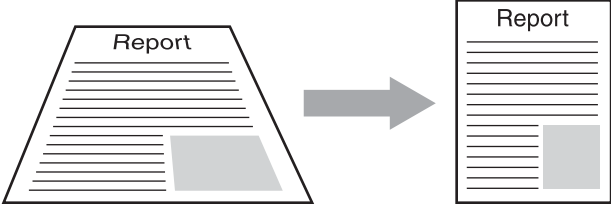


撮影シーンに合わせて撮る

シーンモードを使うと、11種類の静止画モードと動画が選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードの種類

 ポートレート	人物を撮るときに使います。
 フェイス	被写体の顔を自動的に認識し、ピント、露出、ホワイトバランスを調整します。 詳しい操作手順はP.41で説明しています。
 スポーツ	動きのあるものを撮るときに使います。
 遠景	緑や青空の多い風景を撮るときに使います。
 夜景	夜景を撮るときに使います。 人物を入れた撮影もできます。 夜景モードでは、以下の条件がそろったときにフラッシュを発光します。 <ul style="list-style-type: none">・フラッシュ設定が [AUTO] のとき・周囲が暗くフラッシュが必要と判断したとき・近い距離に人物などの被写体があるとき
 高感度	薄暗い場所で撮るときに使います。液晶モニターも見やすくなります。
 ズームマクロ	通常のマクロ撮影よりも、被写体をより大きく撮影したい場合に使います。デジタルズームを使うことにより、通常のマクロ撮影よりも被写体をより大きく撮影できます。 光学ズームは使用できません。 詳しい操作手順はP.43で説明しています。
 白黒	白黒の静止画を撮るときに使います。
 セピア	セピアカラーの静止画を撮るときに使います。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

 <p>斜め補正</p>	<p>掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。 詳しい操作手順はP.42で説明しています。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>斜め補正モードでは、[画質・サイズ] は、[N1280]、[N640] から選択できます。(P.67)</p>
 <p>文字</p>	<p>会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 文字の濃淡を変えることもできます。(P.62) 画像サイズは、3264×2448、2048×1536から選択できます。(P.67)</p>
 <p>動画</p>	<p>音声付き動画を撮影します。</p>

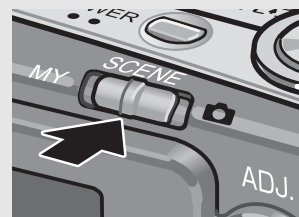
はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

シーンモード時の撮影設定メニュー項目や、機能の制限については、付録を参照してください。(P.186、187)

1 モード切替スイッチをSCENEに合わせる



- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。



2 シーンモードを変更したい場合は、MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ ボタンを押して、シーンモードを選ぶ



4 MENU/OK ボタンを押す

- 液晶モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

● 通常の撮影モードに戻るには

1 モード切替スイッチを📷に合わせる

はじめてお使いのときは必ずお読みください

●フェイスモードを使うには

1 モード切替スイッチをSCENEに合わせる

- ・撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- ・シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して [フェイス] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 構図を決める

- ・顔を認識すると、認識した大きさの枠が青で表示されます。
- ・最大4枠まで表示されます。

6 シャッターボタンを半押しする


- ・複数の顔がある場合でも最適になるようピント合わせが行われます。ピントが合うと、顔認識中の枠が緑で表示されます。ピントが合わないと、顔認識中の枠が消えます。
- ・露出とホワイトバランスが固定されます。

7 シャッターボタンをそのまま静かに押し切る



注意-----

以下のような場合は顔認識できないことがあります。

- ・横顔、傾けている顔、動いている顔の場合
- ・カメラを傾けたり、逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合
- ・顔の一部が隠れている場合
- ・周囲が暗く、顔がよく見えない場合
- ・被写体から遠すぎる場合（グリッドガイド表示  P.55 にしたときに、液晶モニターに写る顔の高さが、グリッドガイド1マスの高さ以上になるようにしてください）
- ・顔が液晶モニターの端にある場合

● 斜め補正モードを使うには

1 モード切替スイッチをSCENEに合わせる

- ・ 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- ・ シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、[斜め補正] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- ・ 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- ・ エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- ・ 別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- ・ 変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

6 MENU/OKボタンを押す

- ・ 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。



注意-----

[斜め補正] に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- ・ 被写体ができるべく大きくなるように、被写体の全体が液晶モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- ・ 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
 - ・ ピンぼけの画像
 - ・ 被写体の4辺がはっきり見えない
 - ・ 被写体と背景の区別がつきにくい
 - ・ 背景が複雑な構図
- ・ 変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。



メモ-----

撮影済みの静止画を斜め補正することもできます。(P.106)

●ズームマクロで撮影するには

1 モード切替スイッチをSCENEに合わせる

- ・ 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- ・ シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、[ズームマクロ] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 ズームレバーを[↑] (望遠) 側や[↓] (広角) 側に押す

- ・ 液晶モニターに倍率が表示されます。

6 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

7 シャッターボタンを押し切る



注意

- ・ ズームマクロを使用しているときは、次の距離までのマクロ撮影ができます。

約1cm	撮影範囲：約21.6×16.2mm (デジタルズーム未使用時)
	撮影範囲：約4.5×3.4mm (デジタルズーム4.8倍時)

- ・ [画質・サイズ] を3264×2448に設定している場合は、[デジタルズーム切替] で [オートリサイズ] を選択すると、オートリサイズズームが有効になります。(P.142)

☺セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒後、2秒後の2種類から選択できます。手ブレを防ぎたいときには2秒に設定すると便利です。

1 モード切替スイッチを📷に合わせる

2 ☺ (セルフタイマー) ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある [10] は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
- ☺ (セルフタイマー) ボタンは、1回押すごとに、10秒→2秒→セルフタイマー解除→10秒→2秒→…と切り替わります。



3 シャッターボタンを押す

- ピントが固定され、セルフタイマーがスタートするとAF補助光/セルフタイマーランプが8秒間点灯し、最後に2秒間点滅して撮影されます。



メモ

- 撮影した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、☺ (セルフタイマー) ボタンを押して、[セルフ オフ] に切り替えます。
- 2秒の場合、AF補助光/セルフタイマーランプは点灯、点滅しません。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

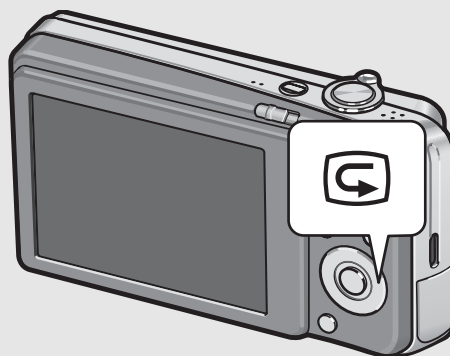
再生する








撮った静止画をすぐ確認する (クイックレビュー)

撮った静止画は、液晶モニターを使ってすぐに見ることができます。うまく撮れていなかったときは、その場で削除できます。

1 撮影モードのまま、 (クイックレビュー) ボタンを押す



- 最後に撮った静止画が液晶モニターに表示されます。



クイックレビュー時の動作	
 ボタン	撮影モードに戻ります。
ズームレバー (Q側)	静止画を拡大表示します。拡大表示中は、     ボタンで表示箇所を移動することができます。
ズームレバー (R側)	拡大した静止画を縮小表示します。
MENU/OK ボタン	拡大した静止画を最大倍率で拡大して表示します。最大倍率で表示されているときは、全体表示に戻します。
 ボタン	表示中のファイルを削除することができます。  ボタンを押すと削除を確認する画面が表示されますので、[削除] を選びMENU/OKボタンを押してください。
DISP.ボタン	ハイライト表示画面に切り替わります。もう一度DISP.ボタンを押すと、クイックレビュー画面に戻ります。



メモ

- いったん電源をオフにすると、撮影モードで (クイックレビュー) ボタンを押しても、撮影した静止画は表示されません。
- シーンモードの [文字] ( P.39) で撮影した静止画をクイックレビューで表示すると、実際に記録された静止画より若干画質が低い状態で表示されることがあります。

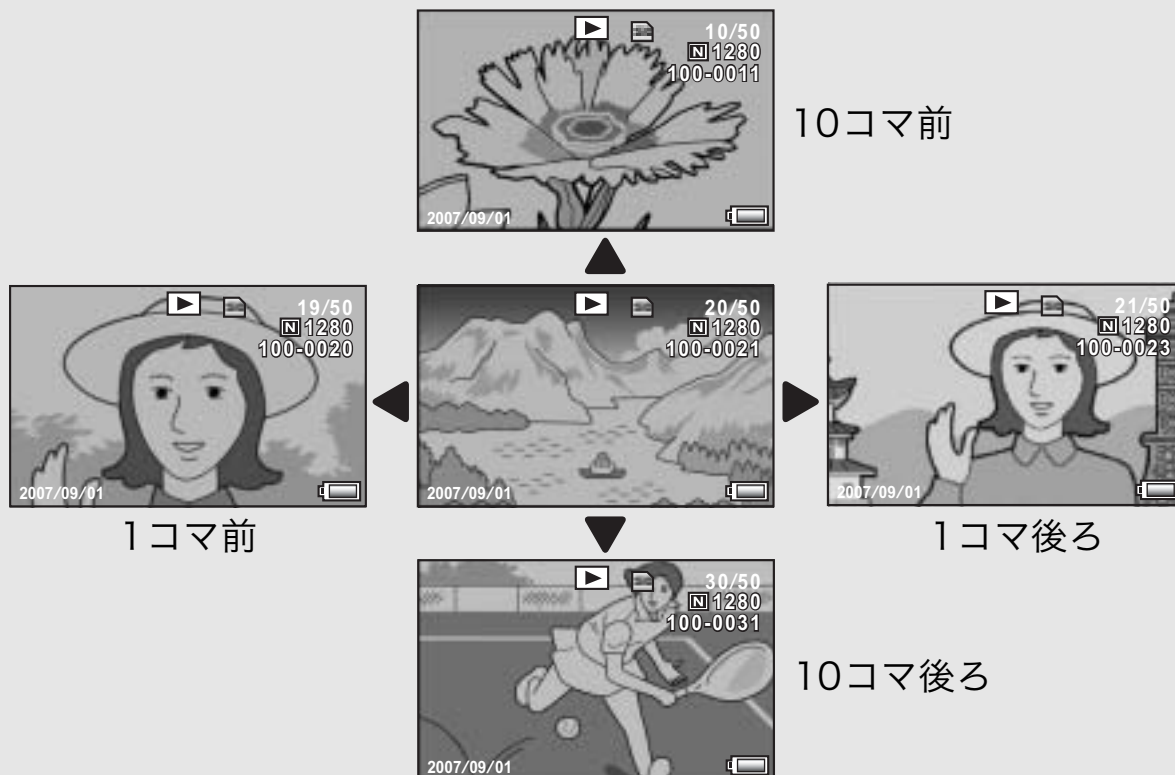
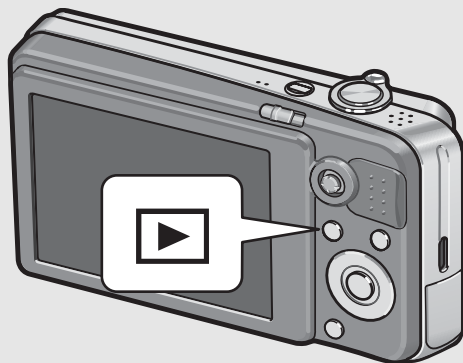
はじめてお使いのときは必ずお読みください

撮った静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

1 ▶ (再生) ボタンを押す

- 再生モードに切り替わり、最後に撮った静止画が表示されます。
- ◀▶ ボタンで、順番に静止画を見ることができます。
- ▲ ボタンを押すと、10コマ前の静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、先頭の静止画が表示されます。
- ▼ ボタンを押すと、10コマ後ろの静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、最後の静止画が表示されます。
- 再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度▶ (再生) ボタンを押します。



はじめてお使いのときは必ずお読みください



再生モードでの電源オンについて-----

電源がオフの状態ですべての再生ボタンを約1秒以上押し続けると、電源がオンになり、再生モードの状態ですべて起動します。

再生ボタンで電源をオンにした場合も、もう一度再生ボタンを押すと、撮影モードになります。

再生元について-----

SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードから再生されます。

はじめにお使いのときは必ずお読みください

3コマ表示／一覧表示する（サムネイル表示）

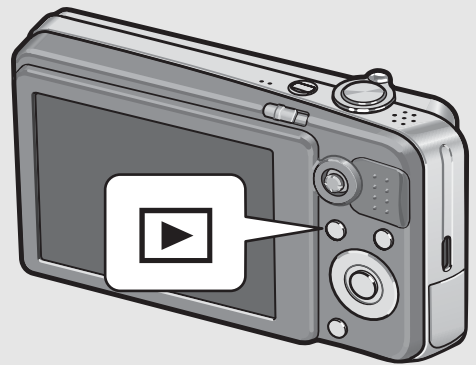
再生画面は3コマ表示または一覧表示（12枚ずつ）にすることができます。3コマ表示／一覧表示では、静止画を選択して、その静止画を1枚表示にしたり、削除することができます。

再生画面は次のように切り替わります。



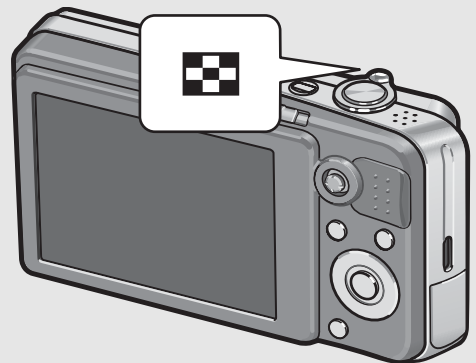
1 再生ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。



2 ズームレバーを☒（サムネイル表示）側に回す

- 3コマ表示に変わります。中央の大きなコマが現在選択されている静止画です。
- ▲ボタンを押すと、10コマ前の静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、先頭の静止画が表示されます。



- ▼ボタンを押すと、10コマ後ろの静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、最後の静止画が表示されます。

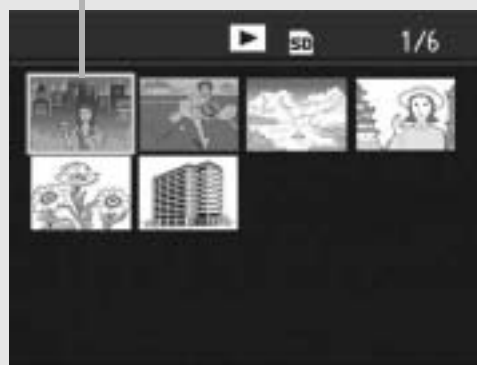


はじめてお使いのときは必ずお読みください

3 3コマ表示時に再度ズームレバーを☒（サムネイル表示）側に回す

- 画面が12分割されて、静止画が一覧表示されます。

選択されている静止画



1枚表示するには

● 3コマ表示の場合

- 1 ◀▶ ボタンを押して静止画を選ぶ
- 2 ズームレバーをQ（拡大表示）側に回す、またはMENU/OKボタンを押す

● 一覧表示の場合

- 1 ▲▼◀▶ ボタンを押して静止画を選ぶ
- 2 ズームレバーをQ（拡大表示）側に2回、回す



メモ

3コマ表示で次の操作を行うと、通常の再生画面（1枚表示）に戻って各操作を実行します。

- 削除する（☒ P.51）
- メニューを表示する（☒ P.100）
- 動画を再生する（☒ P.99）

はじめてお使いのときは必ずお読みください

静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
3264×2448、3264×2176、2592×1944、2048×1536	16倍
1280×960	6.7倍
640×480	3.4倍

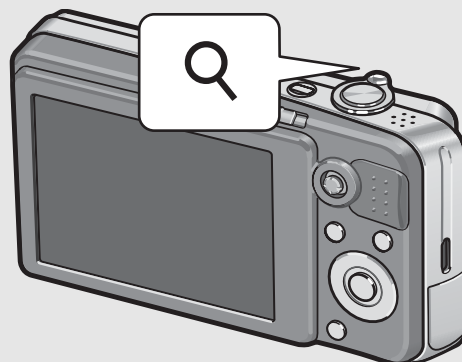
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンを押して拡大表示したい静止画を表示する

3 ズームレバーを Q（拡大表示）側に回す

- 静止画が拡大されます。



画像拡大時の動作	
ズームレバー（Q側）	静止画を拡大表示します。拡大表示中は、▲▼◀▶ボタンで表示箇所を移動することができます。
ズームレバー（R側）	拡大表示された静止画を元の大きさに戻します。
MENU/OKボタン	拡大表示中にMENU/OKボタンを押すと、静止画を最大倍率で拡大して表示します。最大倍率で表示されているときは、元の大きさに戻します。




メモ

- クイックレビュー時にも拡大表示できます。
- 動画は拡大表示することができません。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

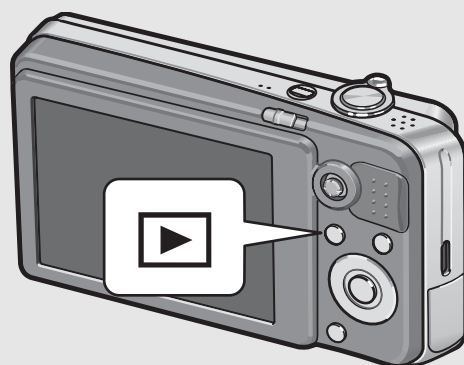
削除する

不要なファイルや撮影に失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーから削除することができます。

誤って必要なファイルを削除してしまった場合は、[ファイル復元]機能を使うと、削除したファイルを元に戻すことができます。
( P.116)

1 ファイルを削除する

- 1**  (再生) ボタンを押す
- 2**  ボタンを使って削除したいファイルを表示する
- 3**  (削除) ボタンを押す
- 4**  ボタンを押して、[1ファイル削除]を選ぶ
 -  ボタンを使って削除するファイルを変更できます。
- 5** MENU/OKボタンを押す
 - 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4の画面に戻ります。



はじめてお使いのときは必ずお読みください

すべてのファイルを削除する

1 ▶ (再生) ボタンを押す

2 𠂆 (削除) ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンを押して、[全削除] を選ぶ

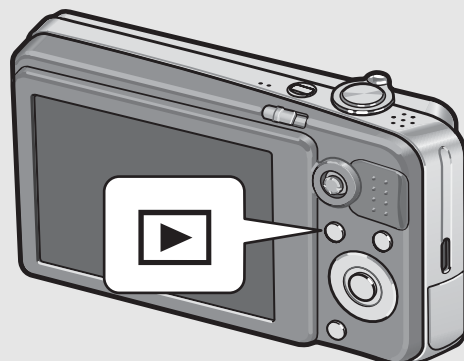
4 MENU/OK ボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されるので、▶ ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OK ボタンを押します。



メモ

3コマ表示の状態 (P.48) で、𠂆 (削除) ボタンを押しても、ファイルを削除できます。



複数のファイルを一度に削除する

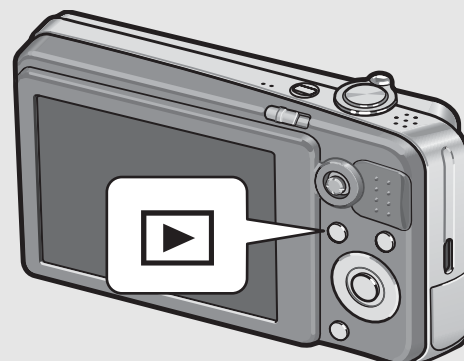
複数のファイルを一度に削除する場合は、削除するファイルを1つずつ指定する方法と、削除する範囲を指定する方法があります。また、両方の指定方法を組み合わせて削除することもできます。

1 ▶ (再生) ボタンを押す


2 ズームレバーを 𠂆 (サムネイル表示) 側に2回、回す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 𠂆 (削除) ボタンを押す




● 削除するファイルを1つずつ指定する場合

4 ▲▼◀▶ ボタンを押して、削除したいファイルを選び、 (削除) ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。



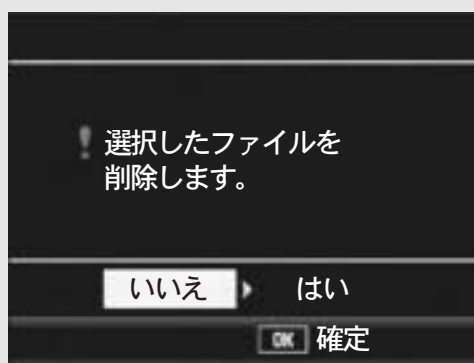
5 手順4を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して  (削除) ボタンを再度押すと解除できます。

6 MENU/OK ボタンを押す

7 ◀▶ ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。



はじめてお使いのときは必ずお読みください

● 削除する範囲を指定する場合

4 ADJ.ボタンを押す

- もう一度ADJ.ボタンを押すと、1ファイルずつ指定する画面に戻ります。

5 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい範囲の始点になるファイルを選び、 (削除) ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。




6 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい範囲の終点になるファイルを選び、 (削除) ボタンを押す

- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。



7 手順5、6を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

- 間違えて選択したときは、ADJ.ボタンを押して1ファイルずつ指定する画面に戻り、ファイルを選択して (削除) ボタンを押すと解除できます。

8 MENU/OKボタンを押す

9 ◀▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

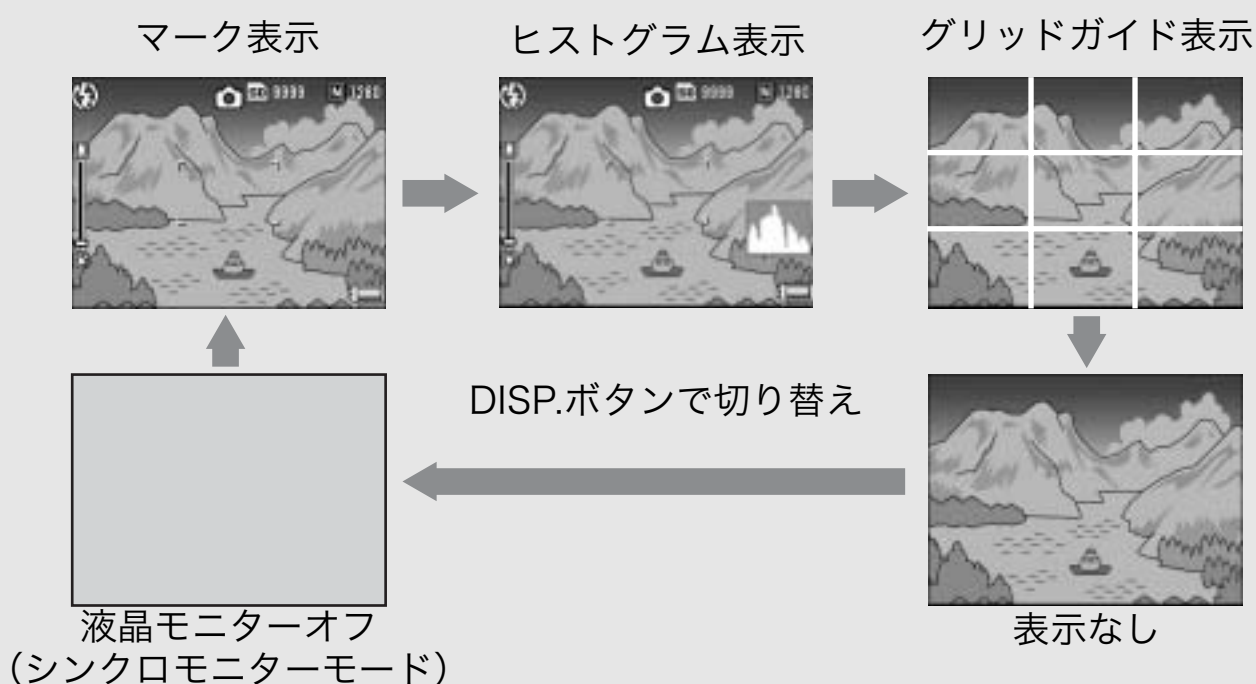
はじめてお使いのときは必ずお読みください

DISP.ボタンで 画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

● 撮影モード時

DISP.ボタンは、1回押すごとに、ヒストグラム表示→グリッドガイド表示→表示なし→液晶モニターオフ→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。



グリッドガイド表示

液晶モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

シンクロモニターモード

カメラ操作時以外は、液晶モニターをオフにする機能です。節電に効果があります。シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターがオンになり、押し切ったあとに確認画面が表示されて、液晶モニターがオフになります。



メモ

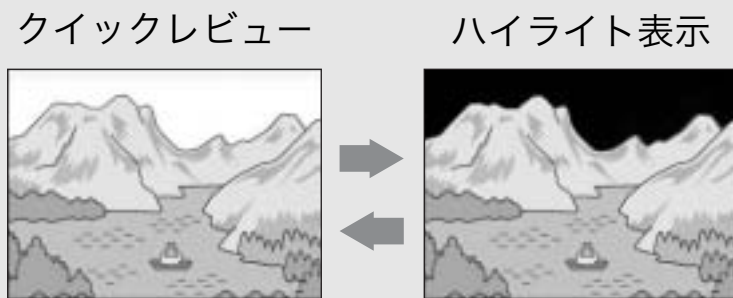
[撮影アイコン拡大] をオンにした場合 (P.146)、マーク表示画面では次のマークが表示されません。

ズームバー／フォーカスバー、日付入れ撮影、シャープネス、色の濃さ

はじめてお使いのときは必ずお読みください

●クイックレビュー時

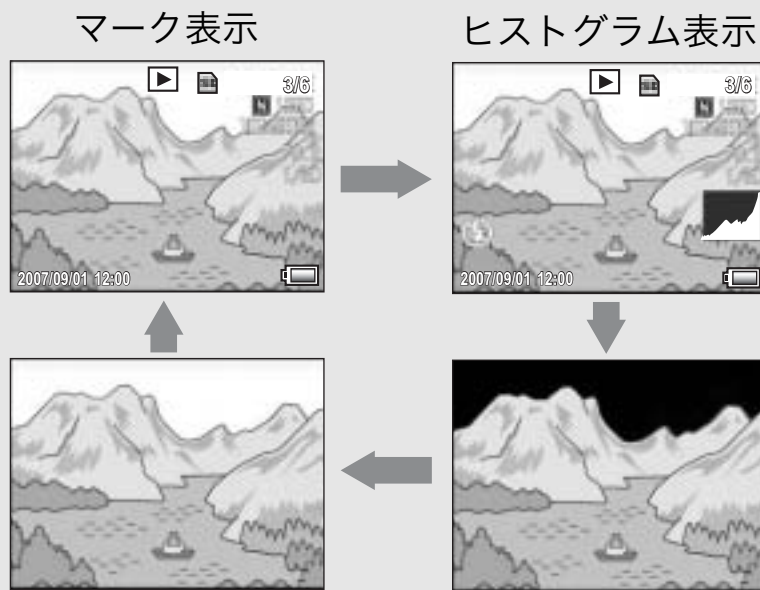
DISP.ボタンを押すと、ハイライト表示画面に切り替わります。ハイライト表示画面では、ハイライト部分が黒く点滅します。もう一度DISP.ボタンを押すと、クイックレビュー画面に戻ります。



DISP.ボタンで切り替え

●再生モード時

DISP.ボタンを1回押すごとに、ヒストグラム表示→ハイライト表示→表示なし→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。



DISP.ボタンで切り替え



ハイライト表示

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。構図を変える、露出を一側に補正する（P.87）などして、撮り直すことをお勧めします。



メモ

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

画面の輝度を最大にする

DISP.ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。輝度が最大のときにDISP.ボタンを押し続けると、LCD輝度調節(P.132) で設定した明るさに戻ります。

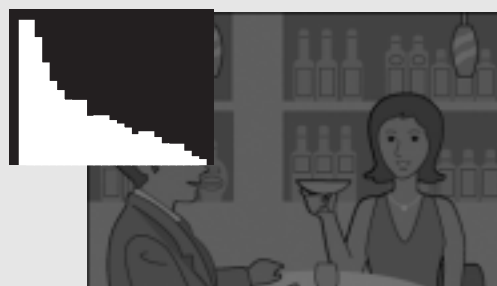
ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、液晶モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。

ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる液晶モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムの山が右側だけ盛り上がり、ほかには何も無い場合は、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

グラフの山が左側だけ盛り上がっている場合は、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。



はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.87を参照してください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

応用編

目的に応じて必要なとき
にお読みください

1	いろいろな撮影	60
2	動画を撮影・再生する	96
3	いろいろな再生	100
4	ダイレクトプリントで 印刷する	119
5	カメラの設定を変える	127
6	画像をパソコンに 取り込む	152
7	付録	172

1

2

3

4

5

6

7

ADJ.ボタンの機能

ADJ.ボタンには、撮影設定メニューのうち4つの機能を登録することができます。ADJ.ボタンに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくとう便利です。

ご購入時には3つの機能が登録されていますが、セットアップメニューで機能を追加・変更することができます。機能追加・変更の操作はP.144を参照してください。

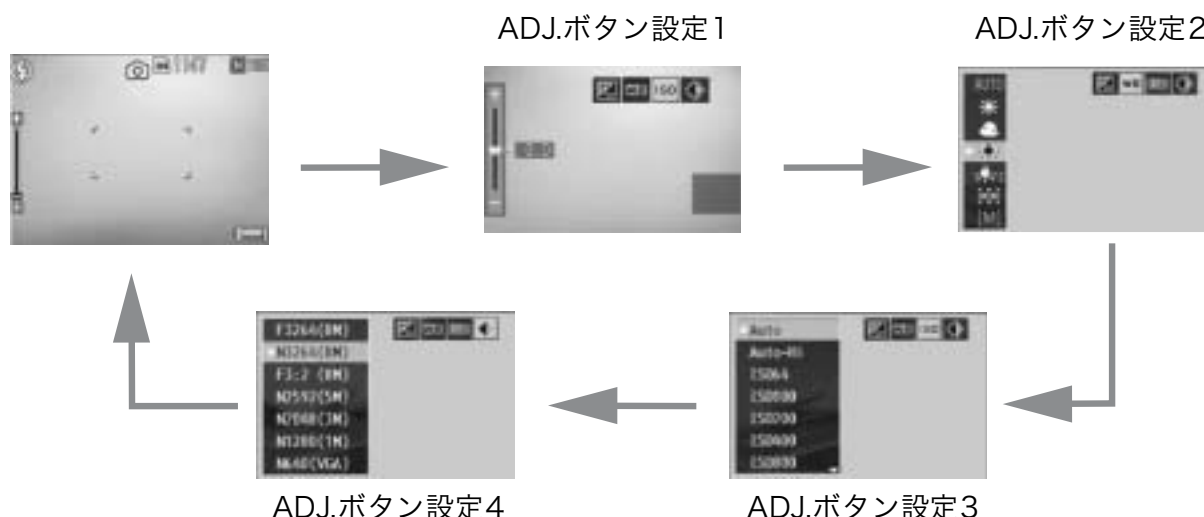
ADJ.モードでの操作方法は、以下のとおりです。

1 撮影モードでADJ.ボタンを押すか、上下にたおす

- ADJ.モード画面が表示されます。手順1でADJ.ボタンを上下にたおした場合は、1項目目の値が変更された状態で表示されます。

2 ADJ.ボタンを左右にたおすか、◀▶ボタンを押して設定したい項目を選択する

- 以下の画面は、セットアップメニューで[ADJ.ボタン設定1]～[ADJ.ボタン設定4]に[露出補正]、[ホワイトバランス]、[ISO]、[画質]の機能を登録した場合の画面例です。



3 ADJ.ボタンを上下にたおすか、▲▼ボタンを押して値を選択する

4 ADJ.ボタンまたはMENU/OKボタンを押して確定する



メモ

カメラメモを使用しているときは、ADJ.ボタンの機能は使用できません。(☞ 『使用説明書 (ソフトウェア編)』)

[ADJ.ボタン設定] で登録できる機能

露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、シャープネス、測光方式、連写、オートブラケット

シーンモード時に設定可能な機能について

シーンモード時は、ADJ.ボタンで設定できる機能がオート撮影モード時と異なります。ADJ.ボタンで設定できる項目は、以下のとおりです。

シーンモード	設定できる項目
[動画]	ホワイトバランス
[文字]	文字濃度
[動画]、[文字] 以外	露出補正、ホワイトバランス

文字濃度を変える (シーンモード)

シーンモードの [文字] で撮影する (P.39) 場合の、文字の濃淡を変更することができます。

濃淡は [濃い]、[標準]、[淡い] から選択できます。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。

撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」(P.66)、「シーンモードの撮影設定メニュー」(P.187)を参照して操作してください。

1 モード切替スイッチをSCENEに合わせる

2 MODEボタンを押す

- ・ シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、[文字]を選び、MENU/OKボタンを押す



4 ADJ.ボタンを押す

- ・ 文字濃度のメニューが表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、濃度を選ぶ

- ・ この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 MENU/OKボタンを押す

- ・ 文字濃度の設定値は画面上には表示されません。



AFターゲットを移動する (マクロ)

マクロ撮影時にADJ.ボタンを押すと、カメラを動かすことなく、カメラの▲▼◀▶ボタンでAFターゲットを移動することができます。AFターゲットを移動した位置でフォーカスロック (P.30) を行い、撮影ができます。三脚を使った撮影時に便利です。



◀ボタンでAF
ターゲットを
移動した場合



1

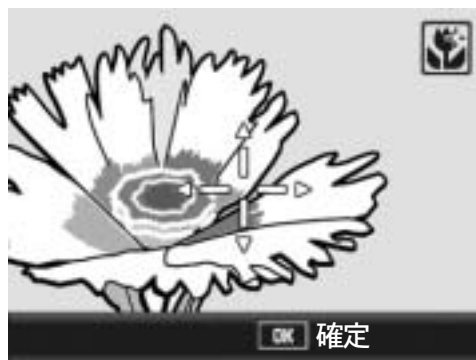
いろいろな撮影

1 撮影できる状態で、🌸 (マクロ) ボタンを押す

- 画面にマクロモードのマークが表示されます。

2 ADJ.ボタンを押す

3 AF ターゲット移動画面 (画面中央の十字) が表示されるまで、◀▶ボタンを押す



4 ▲▼◀▶ボタンでピントを合わせたい被写体に十字を移動する

5 MENU/OKボタンを押す

6 シャッターボタンを半押しする

- 十字の位置にピント合わせが行われます。



7 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 以降、マクロモードを解除するまで、AF ターゲット移動機能で設定した位置にピント合わせが行われます。

撮影設定メニューについて






撮影モードでMENU/OKボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
画質・サイズ	F3264(8M)、[N3264(8M)]、F3:2(7M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.67
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.69
測光方式	[マルチ]、中央、スポット	P.72
シャープネス	シャープ、[標準]、ソフト	P.73
連写	[OFF]、連写、S連写、M連写	P.74
色の濃さ	[普通]、濃い、薄い	P.78
オートブラケット	[OFF]、ON、WB-BKT、CL-BKT	P.79
長時間露光	[OFF]、1秒、2秒、4秒、8秒	P.83
インターバル撮影	[0秒]、5秒～3時間	P.84
日付入れ撮影	[OFF]、日付、日時	P.86
露出補正	-2.0～+2.0	P.87
ホワイトバランス	[AUTO]、  (屋外)、  (曇天)、  (白熱灯)、  (白熱灯2)、  (蛍光灯)、  (手動設定)	P.88
ISO感度	[AUTO]、AUTO-HI、ISO64、ISO100、ISO200、ISO400、ISO800、ISO1600	P.90
スローシャッター速度制限	OFF、1/2秒、1/4秒、[1/8秒]	P.92
手ブレ補正	OFF、[ON]	P.93
デュアルサイズ記録	[OFF]、ON	P.94
撮影設定初期化	—————	P.95

1

いろいろな撮影

シーンモードが☺のとき

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
動画サイズ	[640]、320	P.67
フレームレート	[30コマ/秒]、15コマ/秒	P.97
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.69
ホワイトバランス	[AUTO]、  (屋外)、  (曇天)、  (白熱灯)、  (白熱灯2)、  (蛍光灯)、  (手動設定)	P.88



メモ

- シーンモードで☺以外の選択項目については、P.187を参照してください。
- 撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(☺ P.127)

メニューの操作方法

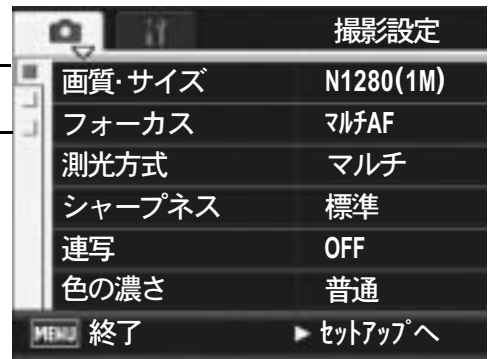
各設定項目の設定方法について説明します。

▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

1 撮影モードで MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

設定画面が3画面あることを示しています。



2 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。



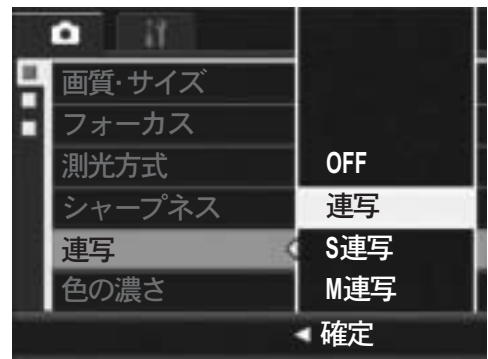
3 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

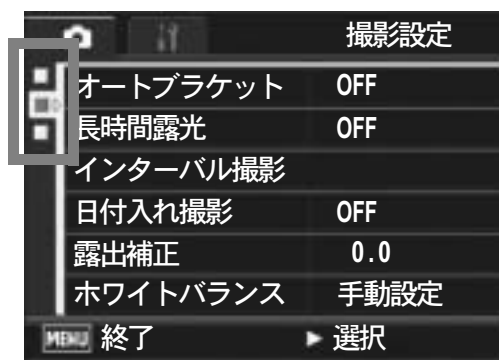
- 設定が確定します。
- 撮影設定メニューが消え、撮影できる状態になります。



画面の切り替え

タブで画面を切り替えることができます。

- ◀ボタンを押すと、画面左のタブが選択できる状態になります。
- ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
- ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



画質モード／画像サイズを選ぶ (画質・サイズ)

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときにの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	備考
3264×2448	F(Fine) N(Normal)	F3264(8M) N3264(8M)	• パソコンに取り込んで画像を補正する • 大きくプリントする
3264×2176	F(Fine)	F3:2(7M)	
2592×1944	N(Normal)	N2592(5M)	• プリントする
2048×1536	N(Normal)	N2048(3M)	
1280×960	N(Normal)	N1280(1M)	• 枚数を多く撮る • 枚数を多く撮る • メールに添付 • ホームページ用の画像として使用
640×480	N(Normal)	N640(VGA)	

- シーンモードの [斜め補正] の場合は、1280×960、640×480から選択できます。
- シーンモードの [文字] の場合は、3264×2448、2048×1536から選択できます。
- [F3:2] に設定すると、撮影範囲に合わせて、液晶モニターの上下に黒い帯部分が付加されます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
640×480	640
320×240	320

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。
(P.97)



メモ

- 画質モードは圧縮率によりNormalモード (N) とFineモード (F) があります。
Normalモード：画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。
Fineモード：画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。
- 内蔵メモリー/SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ] によって異なります。(P.182)

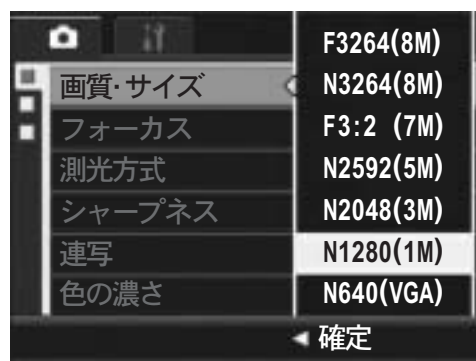
1 モード切替スイッチを に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

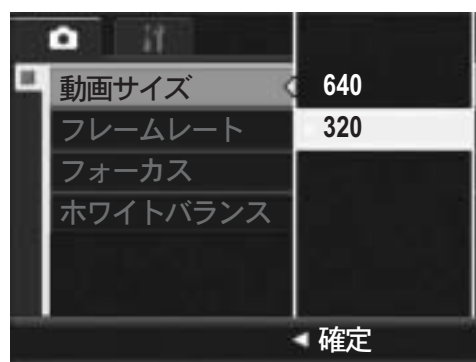
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [画質・サイズ] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



静止画の場合



動画の場合

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す




- 画面に設定値が表示されます。

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。

ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の5種類があります。

選択できるピント合わせの方式

マーク	方式	内容
なし	マルチAF	9箇所のAFエリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	このAFエリアを液晶モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
	MF（マニュアルフォーカス）	手でピントを合わせるときに使います。
	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。 無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1

いろいろな撮影

1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- ・ 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [フォーカス] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- ・ 画面にマークが表示されます。



手動でピントを合わせて撮影する (MF)

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます (MF: マニュアルフォーカス)。マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。



メモ

- シーンモードでは、[ズームマクロ]、[白黒]、[セピア]、[斜め補正]、[動画] のときマニュアルフォーカスが使用できます。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。

1 モード切替スイッチを に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [フォーカス] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[MF] を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す

- 画面に [MF] と表示されます。



6 必要に応じて、▼ボタンを押す

- ▼ボタンを押すと拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。

7 ▶ ボタンを押して、フォーカスバー／ズームバー表示をフォーカスバー表示にする

- ▶ ボタンを押すたびに、フォーカスバー表示とズームバー表示が切り替わります。



8 ズームレバーを[▲] (望遠) 側や[▼] (広角) 側に回してピントを合わせる

- ズームレバーを[▲] (望遠) 側に回すと遠距離方向に移動します。
- ズームレバーを[▼] (広角) 側に回すと近距離方向に移動します。

9 シャッターボタンを押して撮影する



メモ



ズームバー表示のときには、ズームレバーを[▲] (望遠) 側や[▼] (広角) 側に回すことでズームバーを操作することができます。

測光方式を変える（測光方式）

露出値を決めるときの測光方式（どの範囲で測光するか）を変更することができます。

測光方式には、次の3種類があります。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
(マーク表示なし)	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。 逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

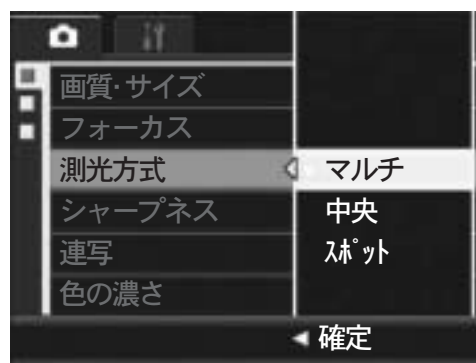
1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- ・ 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [測光方式] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

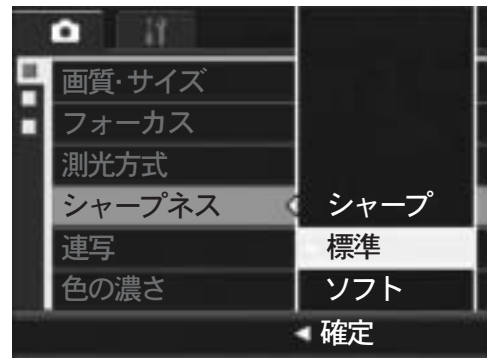
- ・ [中央]、[スポット] を選択した場合は、画面にマークが表示されます。



静止画の質感を変える（シャープネス）

静止画の質感をシャープにしたりソフトにしたりすることができます。

- 1 モード切替スイッチを📷に合わせる
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・ 撮影設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ボタンを押して[シャープネス]を選び、▶ボタンを押す
- 4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



- 5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す
 - ・ 画面にマークが表示されます。

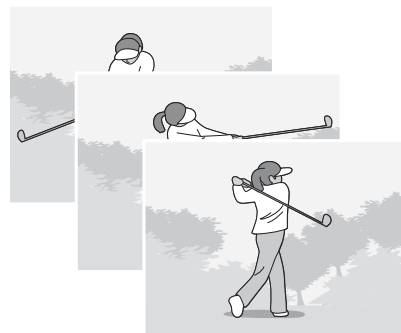


連写で撮る (連写/S連写/M連写)

連写に設定すると、連続撮影ができます。
連写には次の3種類があります。

連写

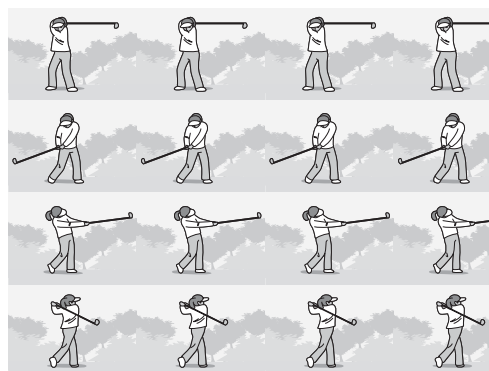
シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。



S (ストリーム) 連写

シャッターボタンを押し切った瞬間から撮影間隔1/7.5秒で16枚 (約2秒間) 連続撮影します。

16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル (3264×2448ピクセル) として記録します。

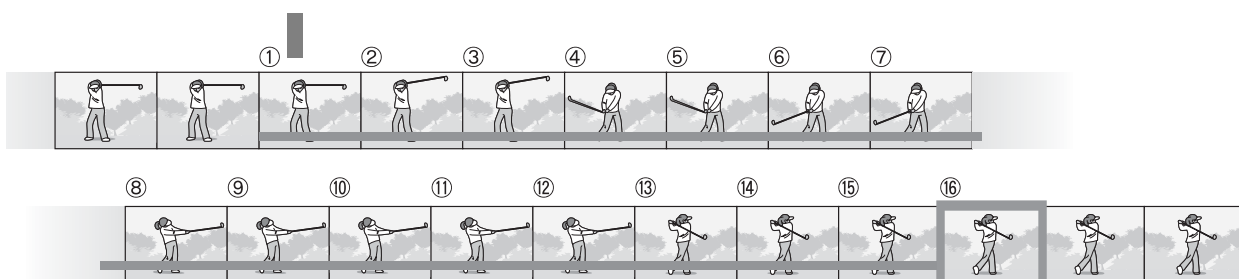


M (メモリー逆戻り) 連写

シャッターボタンを離れた瞬間からさかのぼった約2秒を連続撮影します。

16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル (3264×2448ピクセル) として記録します。

②約2秒間さかのぼって記録



①ここでシャッターを離すと・・・



メモ

- S連写/M連写のときは、ISO感度を [ISO 64]、[ISO 100] に設定しても [AUTO] になります。
- 連写を使って撮影するときの連続撮影可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- 最大連続撮影可能枚数は、999枚です。
- 内蔵メモリーを使用した場合の連続撮影可能枚数は、下記の表のとおりです。

画像サイズ	連続撮影可能枚数
3264×2448、3264×2176、 2592×1944、2048×1536	4枚
1280×960、640×480	10枚

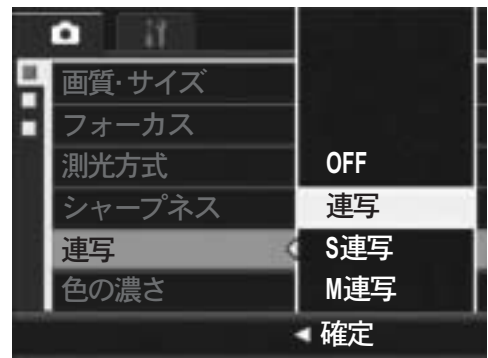
1 モード切替スイッチを に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [連写] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[連写]、[S連写]、[M連写] のいずれかを選ぶ



5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- ・ シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

7 シャッターボタンを離して連写を終了する

- ・ 連写で撮影した静止画を再生するには、再生モードにして (P.46)、◀▶ ボタンで再生したい静止画を選択します。

S連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押す

- ・ 自動的に16枚連続して撮影されます。

M連写のとき



6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- ・ カメラが被写体を記憶 (メモリー) します。

7 シャッターボタンを離す

- ・ 連写が終了し、直前の約2秒間 (16枚) を1枚の静止画として記録します。

メモ-----

- ・ 通常の1枚ごとの撮影に戻したいときには、手順1~3を行い、手順4で [OFF] を選択してMENU/OKボタンを押します。
- ・ M連写では、シャッターボタンを押しはじめてから2秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録され、連続撮影枚数は16枚より少なくなります。
- ・ フラッシュは、発光禁止になります。
- ・ 連写を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写を設定すると、 が  に切り替わります。(P.93)
- ・ 連写時は、フォーカスと露出値が固定されます。
- ・ [CARD連続NO.] を [ON] に設定している場合 (P.147)、連写撮影中にファイル番号の下4桁が「9999」を超えると、SDメモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。

S連写/M連写した静止画を拡大して見る

S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。

S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

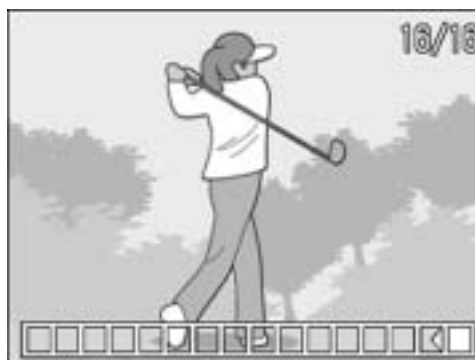
- ・最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンを使ってS連写またはM連写で撮影した静止画を表示する



3 ズームレバーをQ（拡大表示）側に回す

- ・連写した先頭の1コマが拡大表示されます。液晶モニターの下にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ・◀▶ ボタンを押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、MENU/OKボタンを押します。



メモ

DISP.ボタンを押すたびに、液晶モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。（P.55）

色の濃さを設定する（色の濃さ）

撮影する静止画の色の濃さを [普通]、[濃い]、[薄い] の3種類から選択できます。

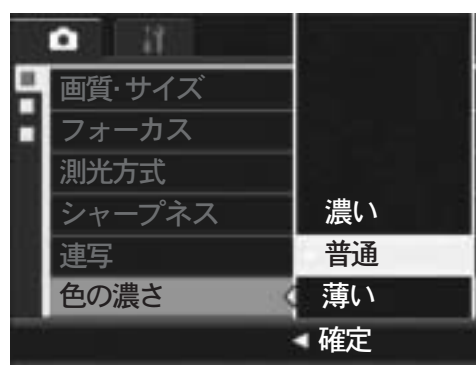
1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

・ 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [色の濃さ] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

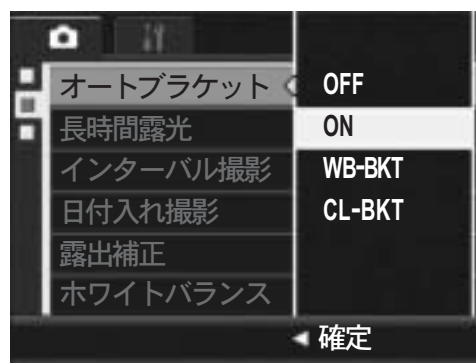
・ [普通] 以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。



露出を変化させて連続撮影する (オートブラケット)

オートブラケットは、設定されている露出を基準に-0.5EV、±0、+0.5EVと3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影する機能です。

- 1 モード切替スイッチを に合わせる
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - 撮影設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ボタンを押して [オートブラケット] を選び、▶ボタンを押す
- 4 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ
- 5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す
 - 画面にマークが表示されます。
- 6 シャッターボタンを押して撮影する



- 設定されている露出補正值を基準に、-0.5EV、±0、+0.5EVで3枚連続撮影されます。
- 撮影直後に液晶モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.5EV（暗い）、基準の補正值、+0.5EV（明るい）です。



メモ

- 露出補正值は、撮影設定メニューで変更できます。(P.87)
- 連写を設定している場合は使用できません。(P.74)
- フラッシュは発光禁止になります。
- オートブラケットでは、露出以外にホワイトバランスまたは色を変更して撮影することもできます。選択できるのは、ひとつだけです。

ホワイトバランスを変化させて連続撮影する (WB-BKT：ホワイトバランスブラケット)

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。

適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

1

いろいろな撮影

- 1 モード切替スイッチを📷に合わせる
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・ 撮影設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ボタンを押して [オートブラケット] を選び、▶ボタンを押す
- 4 ▲▼ボタンを押して、[WB-BKT] を選ぶ



- 5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

・ 画面にマークが表示されます。



- 6 シャッターボタンを押して撮影する

・ 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。





メモ

- 連写を設定している場合は使用できません。(P.74)
- フラッシュは発光禁止になります。
- [長時間露光] (P.83) の設定は [OFF] になります。
- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。(P.88)

色を変えて連続撮影する (CL-BKT : カラーブラケット)

[CL-BKT] を選択して静止画を撮影すると、白黒、カラー、セピアの3枚の画像が自動的に記録されます。

1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

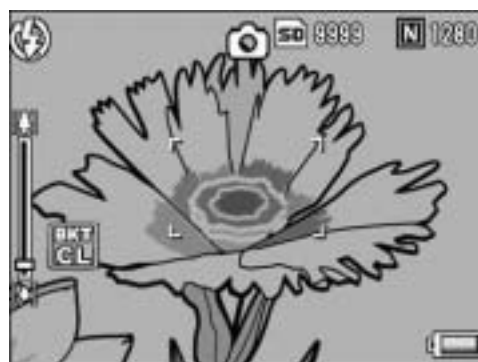
3 ▼ボタンを押して [オートブラケット] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[CL-BKT] を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



6 シャッターボタンを押して撮影する

- 白黒、カラー、セピアの3枚の画像が記録されます。



メモ

- 連写を設定している場合は使用できません。(P.74)
- フラッシュは発光禁止になります。
- [長時間露光] (P.83) の設定は [OFF] になります。

長時間露光を設定する（長時間露光）

長時間露光は [1秒]、[2秒]、[4秒]、[8秒] から選択できます。長時間露光を設定すると、夜景を写したときに、花火や車などの被写体の軌跡を撮影することができます。

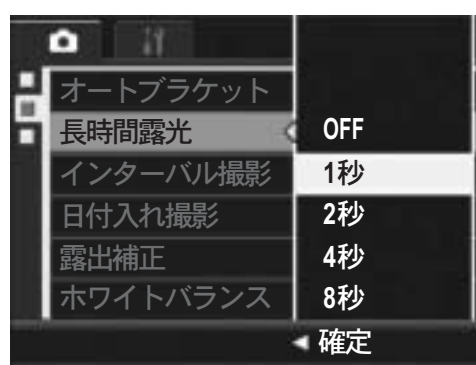
1 モード切替スイッチを に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [長時間露光] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。



メモ

- 長時間露光を設定したときには、シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。三脚等を使用して撮影してください。
- 長時間露光を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で長時間露光を設定すると、 が に切り替わります。
- 長時間露光を設定して撮影した場合、撮影中は液晶モニターの表示が消えます。

一定間隔で自動撮影する (インターバル撮影)

設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、5秒～3時間の間で5秒単位で設定できます。

1 モード切替スイッチを📷に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- ・ 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [インターバル撮影] を選び、▶ボタンを押す

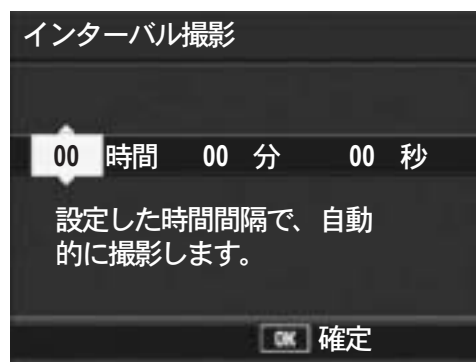


4 ▲▼ボタンを押して時間を設定する

5 ▶ボタンを押して分の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、分を設定する

- ・ ▲▼ボタンを押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。

6 ▶ボタンを押して秒の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、秒を設定する



7 MENU/OKボタンを押す

- ・ 画面に [インターバル] と表示されます。

8 シャッターボタンを押して撮影する

- ・ 設定した間隔で、次々に撮影されます。



9 撮影を中止するときは、MENU/OKボタンを押す



注意

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなる場合があります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。
- シーンモードでは、インターバル撮影はできません。



メモ

- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。十分に充電されたバッテリーの使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が [連写]、[M連写] に設定されていても、自動的に [OFF] に切り替わります。
- 十分に空き容量のある SD メモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

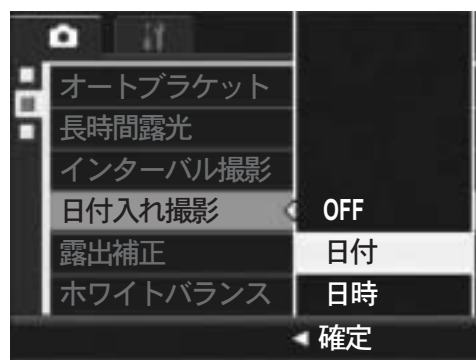
1 モード切替スイッチを📷に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

・ 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[日付入れ撮影]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

・ 画面にマークが表示されます。



メモ

- ・ 日付・時刻が設定されていないと [日付入れ撮影] はできません。あらかじめ日付・時刻を設定してください。(📷P.149)
- ・ 動画に日付を入れることはできません。
- ・ 画像に入れた日付を削除することはできません。

露出を変える（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。撮影範囲の中央に被写体がある場合、通常は自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。

次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、-2.0～+2.0の間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）になってしまうことがありますので、+側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合


全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、+側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、-側に調整します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。ADJ.ボタンに登録する機能は変更することができます。（P.144）

撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（P.66）を参照して操作してください。

- 1 モード切替スイッチを  に合わせてADJ.ボタンを押す
- 2 露出補正バーが表示されるまで、ADJ.ボタンを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す
- 3 ADJ.ボタンを上下にたおすか、▲▼ボタンを押して、値を設定する
 - この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。
- 4 ADJ.ボタンまたはMENU/OKボタンを押す
 - 画面に設定値が表示されます。



メモ







明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）






白い被写体が白く写るように調整を行います。
購入時、ホワイトバランスは「オート」（自動）に設定されています。通常は変更の必要はありませんが、単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

1

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日影等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	白熱灯2	白熱灯の下での撮影時（「白熱灯」に比べて赤みを残して撮影します）
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
	手動設定	手動設定を行います。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。ADJ.ボタンに登録する機能は変更することができます。（P.144）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（P.66）を参照して操作してください。

- 1 モード切替スイッチを  に合わせてADJ.ボタンを押す
- 2 ホワイトバランスのメニューが表示されるまで、ADJ.ボタンを左右にたおすか、  ボタンを押す
- 3 ADJ.ボタンを上下にたおすか、  ボタンを押して、[M]以外の設定を選ぶ
 - この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

いろいろな撮影

4 ADJ.ボタンまたはMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、[AUTO] 以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、[AUTO] を選択してフラッシュ撮影をしてください。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

- 1 モード切替スイッチを に合わせてADJ.ボタンを押す
- 2 ホワイトバランスのメニューが表示されるまで、ADJ.ボタンを左右にたおすか、 ボタンを押す

- 3 ADJ.ボタンを上下にたおすか、 ボタンを押して、[M] を選ぶ

- 4 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

- 5 DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

- 6 ADJ.ボタンまたはMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 手順5で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順4と5を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。



メモ

手動設定を解除するには、上記の手順3で [M] 以外を選択します。

撮影感度を設定する (ISO感度)

ISO感度は、光に対するフィルムの敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。

ISO感度は、次の設定から選択できます。

AUTO、AUTO-HI、ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600






ISO感度が [AUTO] の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、[AUTO] のままで撮影します。

[AUTO-HI] (高感度設定オート) も、撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、[AUTO] よりも感度の上限を高く設定できます。また、暗い被写体等を撮影した場合、シャッタースピードが [AUTO] より速くなるので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。[AUTO-HI] は、セットアップメニューで設定したISO感度まで、自動的に感度を上げます。(P.136)

ISO感度の値を変化させたくない場合は、[AUTO]、[AUTO-HI] 以外を選択します。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。ADJ.ボタンに登録する機能は変更することができます。(P.144)

撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」(P.66) を参照して操作してください。

- 1 モード切替スイッチを  に合わせてADJ.ボタンを押す
- 2 ISO感度のメニューが表示されるまで、ADJ.ボタンを左右にたおすか   ボタンを押す
- 3 ADJ.ボタンを上下にたおすか、  ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4 ADJ.ボタンまたはMENU/OKボタンを押す
 - 画面に設定値が表示されます。





メモ


- ISO感度を [AUTO] に設定しているときにフラッシュを使用すると、最大ISO400相当の感度になります。画像サイズが3264×2448で、ISO感度を [AUTO] に設定してフラッシュを使用しない場合、ISO感度は64～200の間で変動します。
- ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

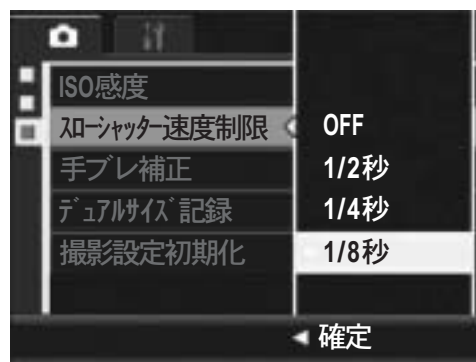
シャッタースピードを制限する (スローシャッター速度制限)

最長シャッタースピードを次の値に制限することができます。

1/8秒、1/4秒、1/2秒

[OFF] に設定すると、ISO感度の設定値により最長シャッタースピードは異なります。

- 1 モード切替スイッチを  に合わせる
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - 撮影設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ ボタンを押して [スローシャッター速度制限] を選び、▶ボタンを押す
- 4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す
 - 画面に設定値が表示されます。




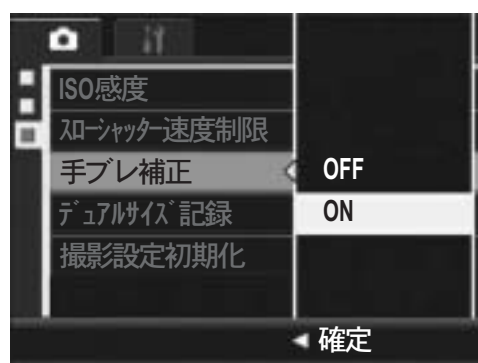
メモ

- 長時間露光の設定時は、長時間露光が優先されます。
- シーンモードの [夜景] 選択時は、[夜景] の最長シャッタースピードが優先されます。
- フラッシュが [スローシンクロ] に設定されている時は、最長シャッタースピードが1秒になります。
- スローシャッター速度制限を使用する場合、被写体の明るさによっては光量が不足し画像が暗くなることがあります。そのときは以下の方法をお試しください
 - スローシャッター速度制限を長くする
 - ISO感度を上げる (P.90)
 - フラッシュを使う (P.35)

手ブレ補正機能で手ブレを防ぐ (手ブレ補正)

手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレが起きにくくなります。
購入時は、手ブレ補正機能がオンに設定されています。

- 1 モード切替スイッチを  に合わせる
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・ 撮影設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ボタンを押して [手ブレ補正] を選び、▶ボタンを押す
- 4 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ







- 5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



・ 画面にマークが表示されます。



注意


- ・ 連写、長時間露光、動画の場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写または長時間露光を設定すると、 が  に切り替わります。シーンモードから  [動画] を選ぶと、 の表示が消えます。
- ・ 被写体ブレ（被写体が風などで揺れてぶれる）は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- ・ 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ

手ブレがしやすい状態だと  マークが表示されます。（ P.29）

サブファイル付き画像を撮影する (デュアルサイズ記録)

[デュアルサイズ記録] をオンにして撮影すると、オリジナルの静止画とサブファイルの2枚が同時に保存されます。サブファイルのサイズは、セットアップメニューの [サブファイルサイズ] で選ぶことができます。(P.137)

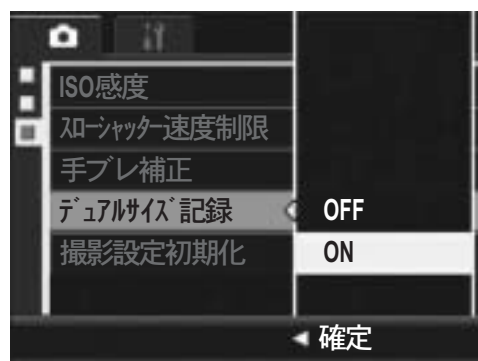
1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

• 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [デュアルサイズ記録] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

• 画面にマークが表示されます。




注意

- オリジナルの画像サイズが3264×2448、3264×2176、2592×1944、2048×1536、1280×960のとき、サブファイルが作成されます。
- オリジナルの画像サイズと同じサイズのサブファイルを設定すると、[デュアルサイズ記録] を [ON] に設定して撮影しても、サブファイルは保存されません。(P.137)
- 連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット、シーンモードの [斜め補正] では、[デュアルサイズ記録] を [ON] に設定しても、サブファイル付き画像を撮影することができません。

撮影設定メニューの設定を元に戻す (撮影設定初期化)

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

1 モード切替スイッチを  に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

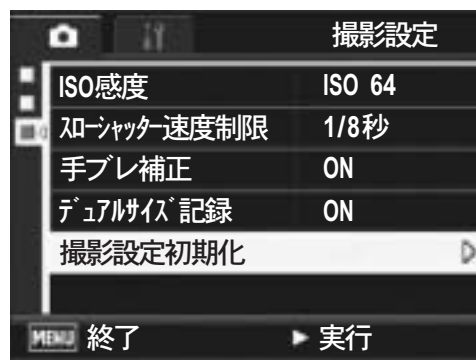
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して [撮影設定初期化] を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。

4 [はい] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。



メモ-----

電源をオフにしても設定値が保持される機能については、付録を参照してください。(P.184)

2 動画を撮影・再生する

📷動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。

画像サイズは、640×480または320×240から選択できます。

また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレーム、15フレームのいずれかが選択できます。

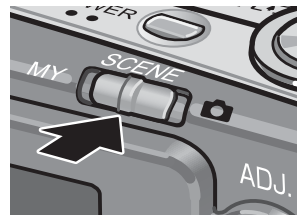
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

2

動画を撮影・再生する

1 モード切替スイッチをSCENE(シーンモード)に合わせる

- ・ 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。



2 MODEボタンを押す

- ・ シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して📷 [動画] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して動画撮影を開始する

- ・ 次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

6 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する



🚩 注意

- ・ 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- ・ 1回あたりの撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります。(📖 P.98) また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- ・ 1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- ・ 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオフの状態から📷 [動画] を選ぶと、📷 の表示が消えます。



メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます。(P.33)
- 手順5でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 動画の画像サイズ (P.67) やフレーム数 (P.97) は、撮影設定メニューで設定します。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。(P.65)
- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。長時間撮影される場合は、十分に充電されたバッテリーのご使用をお勧めします。
- 長時間撮影される場合は、十分に空き容量のあるSDメモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

フレーム数を設定する (フレームレート)

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数 (フレームレート) を設定します。

1 シーンモードで [動画] を選ぶ

2 MENU/OKボタンを押す

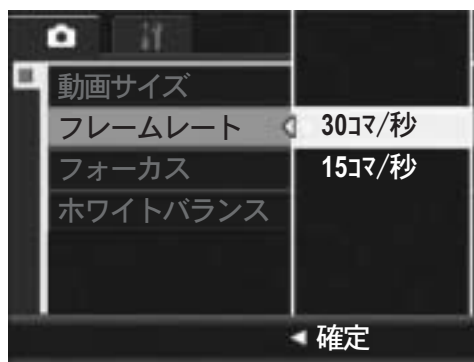
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [フレームレート] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[30コマ/秒] または [15コマ/秒] を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。



動画のフレーム

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。



メモ

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録可能時間の合計の目安は、以下のとおりです。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。

	内蔵	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
640×480 (15コマ/秒)	36秒	3分 4秒	6分 7秒	12分 19秒	23分 42秒	48分 13秒	99分 8秒
640×480 (30コマ/秒)	18秒	1分 33秒	3分 5秒	6分 14秒	11分 59秒	24分 23秒	50分 10秒
320×240 (15コマ/秒)	1分 10秒	5分 59秒	11分 57秒	24分 5秒	46分 19秒	94分 11秒	193分 41秒
320×240 (30コマ/秒)	36秒	3分 4秒	6分 7秒	12分 19秒	23分 42秒	48分 13秒	99分 8秒

動画を再生する

動画を再生するには、次のように操作します。

1 再生ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンで見たい動画にする

- ▶ ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀ ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。
- ▲ ボタンを押すと、10コマ前のファイルを表示します。
- ▼ ボタンを押すと、10コマ後ろのファイルを表示します。



3 ADJ.ボタンを押す

- 再生が始まります。
液晶モニターに、再生経過を示すインジケータや経過時間が表示されます。

早送り	再生中にズームレバーを[▲]側に回す
巻き戻し	再生中にズームレバーを[▼]側に回す
一時停止/再生	ADJ.ボタンを押す
スロー再生	一時停止中にズームレバーを[▲]側に回し続ける
スロー戻し	一時停止中にズームレバーを[▼]側に回し続ける
次のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを[▶]側に回す
前のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを[◀]側に回す
音量を調節する	再生中に▲▼ボタンを押す

3 いろいろな再生

再生設定メニューについて

再生モードでMENU/OKボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
回転	_____	P.102
画像サイズ変更	1280、640	P.103
階調補正	_____	P.104
色調補正	_____	P.105
斜め補正	_____	P.106
プロテクト	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.108
スライドショー	_____	P.111
CARDへコピー	_____	P.112
DPOF	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.113
ファイル復元	_____	P.116

3
いろいろな再生



メモ

再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(P.127)

メニューの操作方法

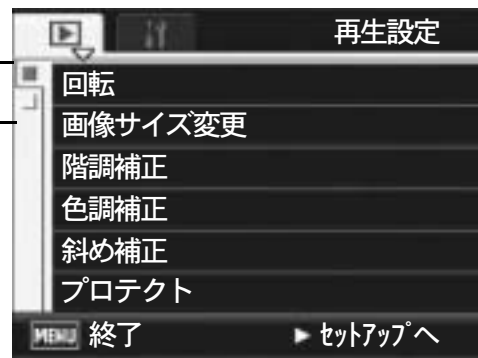
各設定項目の設定方法について説明します。

1 (再生) ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

設定画面が2画面あることを示しています。

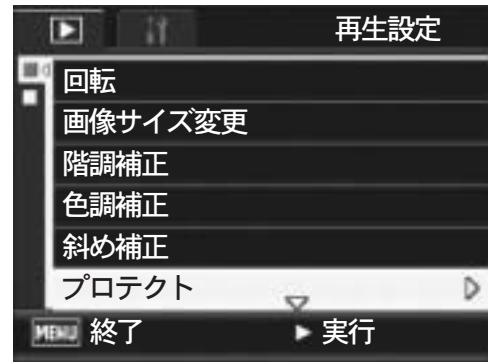


3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

4 ▶ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。



画面の切り替え

タブで画面を切り替えることができます。

- 1 ◀ボタンを押すと、画面左のタブが選択できる状態になります。
- 2 ▲▼ボタンを押して画面を切り替えます。
- 3 ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。




3

いろいろな再生

画像を回転させる（回転）



撮影した静止画を回転して保存することができます。

1 （再生）ボタンを押す

2 ボタンを押して、回転したいファイルを表示する


3 MENU/OKボタンを押す



- 再生設定メニューが表示されます。

4 ボタンを押して、[回転] を選び、ボタンを押す

- [回転] 画面が表示されます。
- 回転できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。



5 ボタンを押して、画像を回転させる

- ボタンを押すたびに、画像が右に90°回転します。
- ボタンを押すたびに、画像が左に90°回転します。
- 回転をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。



6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、画像が上書き保存されます。

注意

- 回転できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、回転できません。
- [デュアルサイズ記録] を [ON] にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが [N640 [VGA]] 未満のサブファイルは回転できません。(P.94、137)
- 画像を回転しても、パソコンではご使用のアプリケーションソフトによって回転前の画像が表示される場合があります。

画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F3264/N3264/F3:2/N2592/ N2048	N1280	N640
N1280	N640	



注意

画像サイズ変更ができるのは、静止画のみです。動画は画像サイズ変更できません。

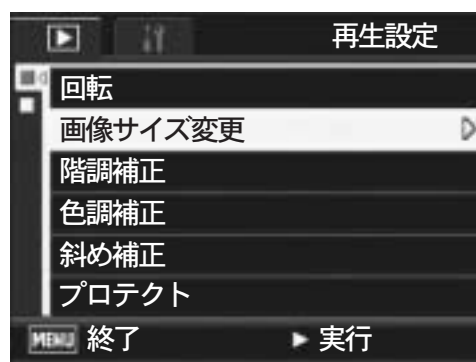


メモ

- [F3:2] の画像は、横と縦の比率が 3:2 です。この画像をリサイズした場合、上下に黒い帯部分を付加した 4:3 の比率の画像にして縮小されます。
- 撮影時に画像サイズを変更することができます。（P.67）


画像サイズを変更するには、次のように操作します。





- 1 （再生）ボタンを押す
- 2 ボタンを押して画像サイズを変更したいファイルを表示する
- 3 MENU/OKボタンを押す
 - 再生設定メニューが表示されます。
- 4 ボタンを押して、[画像サイズ変更] を選び、 ボタンを押す
- 5 ボタンを押して、[1280] または [640] を選ぶ
- 6 MENU/OKボタンを押す
 - 処理中のメッセージが表示され、画像サイズ変更後の記録されます。変更前の画像も残ります。



画像の明度、コントラストを補正する (階調補正)



撮影した静止画の明度、コントラストを補正して記録することができます。

1  (再生) ボタンを押す

2     ボタンを押して、明るさを補正したいファイルを表示する



3 MENU/OKボタンを押す



- ・再生設定メニューが表示されます。

4  ボタンを押して、[階調補正]を選び、 ボタンを押す

- ・画像に階調補正バーとヒストグラムが表示されます。
- ・階調補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。



5   ボタンを押して、明るさを補正する

- ・ ボタンを押すと画像が明るくなり、 ボタンを押すと画像が暗くなります。
- ・5段階の補正が可能です。
- ・階調補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。



6 MENU/OKボタンを押す

- ・処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。



注意

- ・階調補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- ・動画、S連写、M連写で撮影した画像は、階調補正することはできません。
- ・[デュアルサイズ記録] を [ON] にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが [N640 [VGA]] 未満のサブファイルは階調補正することはできません。(P.94、137)
- ・階調補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

画像の色味を補正する（色調補正）

撮影した静止画の色味を補正します。撮影した画像よりも赤みがかかった画像、または青みがかかった画像に補正して記録することができます。

1 （再生）ボタンを押す

2 ボタンを押して、色味を補正したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ボタンを押して、[色調補正]を選び、 ボタンを押す

- 画像に色調補正バーが表示されます。
- 色調補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。



5 ボタンを押して、色味を調整する

- ボタンを押すと赤みがかかった画像になり、 ボタンを押すと青みがかかった画像になります。
- 5段階の補正が可能です。
- 色調補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。



6 MENU/OKボタンを押す


- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。


注意

- 色調補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、色調補正することはできません。
- [デュアルサイズ記録] を [ON] にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが [N640 [VGA]] 未満のサブファイルは色調補正することはできません。（P.94、137）
- 色調補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

斜めから撮影した画像を補正する (斜め補正)



斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換することができます。



1  (再生) ボタンを押す

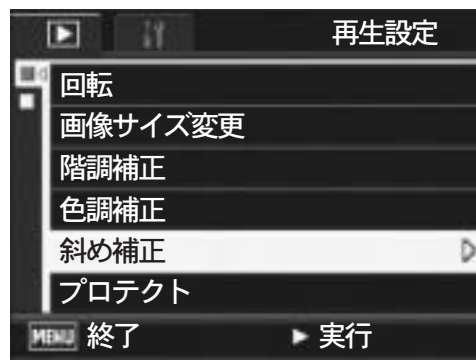
2  ボタンを押して、斜め補正したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4  ボタンを押して、[斜め補正]を選び、 ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、 ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、 ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。



5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。



注意

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、斜め補正することはできません。
- [デュアルサイズ記録] を [ON] にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが [N640 [VGA]] 未満のサブファイルは斜め補正できません。(P.94、137)
- 再生設定メニューの [回転] で回転した画像は、斜め補正することはできません。



メモ

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくこと (P.103)、処理速度を早くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

画像サイズ	補正時間
3264 × 2448	約36秒
2592 × 1944	約24秒
2048 × 1536	約14秒
1280 × 960	約6秒
640 × 480	約2秒

- 撮影時にシーンモードの [斜め補正] を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。(P.39)

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。



注意

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1 ファイルをプロテクトする

1 再生（再生） ボタンを押す

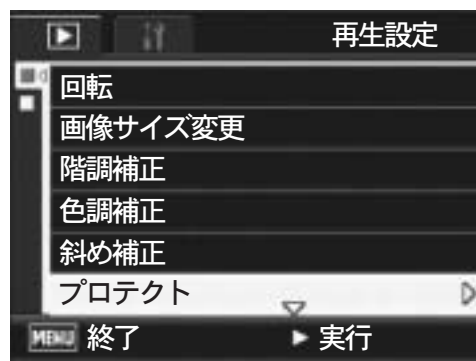
- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンを押してプロテクトしたいファイルを表示する

3 MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、[プロテクト] を選び、▶ ボタンを押す



5 [1ファイル] が選ばれていることを確認して、MENU/OK ボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。



メモ

プロテクトを解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべてのファイルをプロテクトする

すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

- 1 再生 (再生) ボタンを押す
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・再生設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す



- 4 ▲▼ ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ
- 5 [選択] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す
 - ・プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。




- メモ-----
- すべてのプロテクトを解除するには、手順5で [解除] を選択します。


3

いろいろな再生





複数のファイルを一度にプロテクトする

選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1  (再生) ボタンを押す



2 ズームレバーを  (サムネイル表示) 側に2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3     ボタンを押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ





4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5  ボタンを押して、[プロテクト]を選び、 ボタンを押す

- ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。



6     ボタンを押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、MENU/OKボタンを押す

7 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態でMENU/OKボタンを再度押すとプロテクトを解除できます。

8 DISP.ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。



メモ

- 複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択してDISP.ボタンを押します。
- 一度にすべてのプロテクトを解除することもできます。(P.109)
- 一覧表示の詳細については、P.48をご覧ください。

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画を、順番に液晶モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

1 再生ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[スライドショー]を選び、▶ボタンを押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。




メモ

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする (CARDへコピー)

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

- 1 電源をオフにする
- 2 SDメモリーカードをセットする
- 3 電源をオンにする
- 4  (再生) ボタンを押す

5 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

6 ▼ボタンを押して、[CARDへコピー] を選び、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。



メモ





- コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、[はい] を選んでMENU/OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、[いいえ] を選んでMENU/OKボタンを押してください。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

プリントサービスを利用する (DPOF：ディーポフ)

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。

DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。複数の画像にDPOF設定を行って、印刷枚数を指定することもできます。

表示している静止画にDPOF設定する

- 1  (再生) ボタンを押す
- 2  ボタンを押して設定したい静止画を表示する
- 3 MENU/OKボタンを押す
 - ・再生設定メニューが表示されます。
- 4  ボタンを押して、[DPOF] を選び、 ボタンを押す



- 5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す
 - ・DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。



メモ

DPOF設定を解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべての静止画にDPOF設定する

すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

- 1 **▶ (再生) ボタンを押す**
- 2 **MENU/OKボタンを押す**
 - 再生設定メニューが表示されます。
- 3 **▼ ボタンを押して、[DPOF] を選び、▶ボタンを押す**
- 4 **▲▼ ボタンを押して、[全ファイル] を選ぶ**
- 5 **[選択] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す**
 - DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。





メモ

すべてのDPOF設定を解除するには、手順5で [解除] を選択します。

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、DPOF設定を行うには、次のように操作します。

- 1 **▶ (再生) ボタンを押す**
 - 2 **ズームレバーを  (サムネイル表示) 側に2回押す**
 - 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。
 - 3 **▲▼◀▶ ボタンを押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ**
 - 4 **MENU/OKボタンを押す**
 - 再生設定メニューが表示されます。
 - 5 **▼ ボタンを押して、[DPOF] を選び、▶ ボタンを押す**
 - 6 **▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する**
 - ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。
 - 7 **◀▶ ボタンを押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ**
 - 8 **▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する**
 - ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。
 - 9 **手順7~8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する**
 - 10 **MENU/OKボタンを押す**
 - 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。
-  **メモ** -----
- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を [0] に指定してMENU/OKボタンを押します。
 - 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。(P.114)



削除したファイルを復元する (ファイル復元)

削除したすべてのファイルを、元の状態で復元することができます。

ただし、以下の操作を行うと、それ以前に削除したファイルは復元することができなくなります。

- 電源を切る
- 再生モードから撮影モードに切り替える
- DPOF、画像サイズ変更、CARDへコピー、斜め補正、階調補正、色調補正を行う
- DPOF設定したファイルを削除する
- 内蔵メモリーまたはSDメモリーカードを初期化する
- 再生モードでカメラメモを変更する

3

いろいろな再生

1 MENU/OKボタンを押す

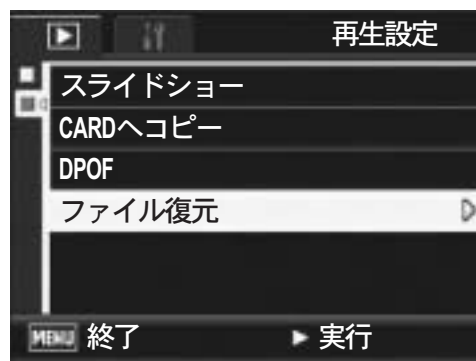
- 再生設定メニューが表示されます。

2 ▼ ボタンを押して [ファイル復元] を選び、▶ボタンを押す

- 復元を確認する画面が表示されます。
- 復元するファイルがない場合は、確認のメッセージが表示されます。

3 ▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- ファイルが元の状態ですべて復元されます。



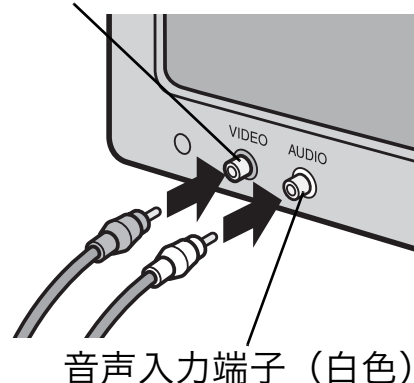
テレビの画面で見る

撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には液晶モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るとは、次のように操作します。

1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかりと接続する

- AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

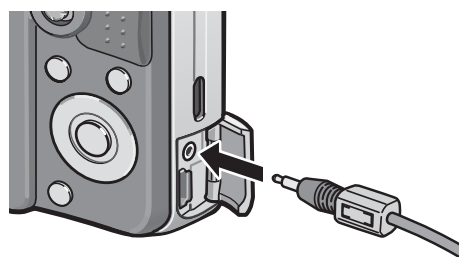
映像入力端子（黄色）



音声入力端子（白色）

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

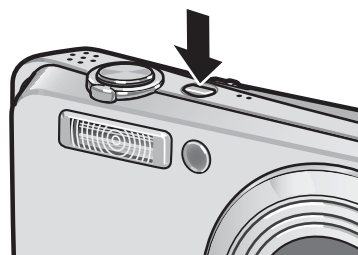
3 AV出力端子にAVケーブルをしっかりと接続する



4 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

5 POWER（電源）ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けて、電源をオンにする



3

いろいろな再生




注意

- AVケーブルで本機を接続している間は液晶モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AVケーブルは無理に差し込まないでください。
- AVケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AVケーブルの使用中は、AVケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。



メモ

- ビデオのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器での再生方式はNTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパなどで使用されている方式）の場合は、カメラのセットアップメニューでPAL方式に設定してから接続してください。（ P.151）

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。



注意

動画（.AVI）は印刷できません。



メモ

- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターがPictBridgeに対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

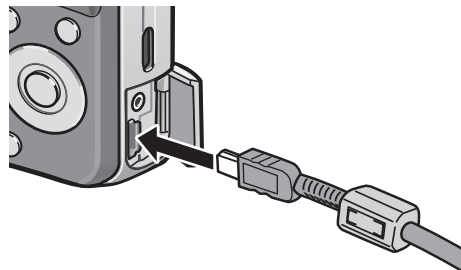
カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。
- 自動的にカメラの電源がオンになります。



メモ

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してからUSBケーブルを外してください。



注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

4

ダイレクトプリントで印刷する

静止画を印刷する

PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。



注意

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。



メモ

送信中に [プリンターエラー] のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。

1枚またはすべての静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- [接続待ち...] 画面が表示されます。

2 ADJ.ボタンを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

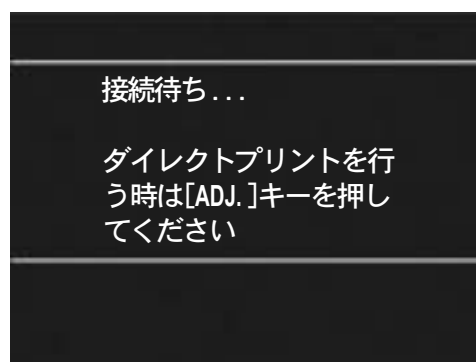
3 ▲▼◀▶ ボタンで、印刷したい静止画を表示する

4 ADJ.ボタンを押す

5 ▲▼ ボタンを押して、[1ファイル] または [全ファイル] を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。



7 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- [接続中・・・] と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると[接続中・・・]が消え、[ダイレクトプリント]と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。



項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップモードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。（P.125）
帳票カメラメモ印字※	カメラメモが付いた画像を帳票印刷するとき、カメラメモの内容を帳票に印刷できます。（P.126） [帳票印刷] で選択されたレイアウトによっては、カメラメモ印字が欠ける場合があります。その場合は、カメラメモの文字数を減らしてください。
印刷部数	印刷部数を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面/両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。[両面] に設定すると、両面で印刷されます。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は1枚となります。P.123の手順6で印刷枚数を複数枚設定しても、1枚のみ印刷されます。

※各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ (<http://www.rioh.co.jp/office/>) をご覧ください。

8 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

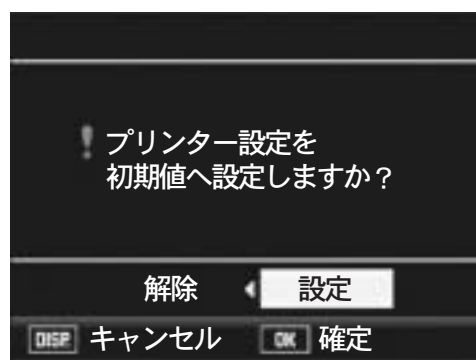
- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目の値を設定する



メモ

- 手順7の画面でADJ.ボタンを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面が出たら、◀▶ボタンを押して「設定」を選び、MENU/OKボタンを押してください。
- 「解除」を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。



10 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、[送信中]画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- 「[接続待ち...]」画面が表示されます。

2 ADJ.ボタンを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 田(サムネイル表示)ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画が一覧表示されます。

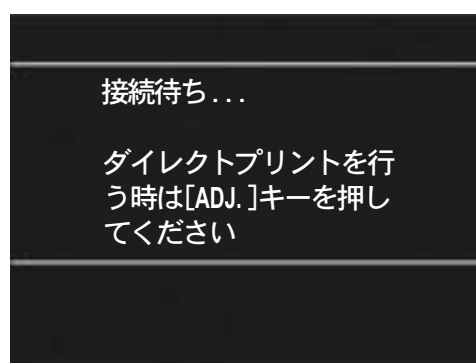
4 ▲▼◀▶ボタンを押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

6 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して次に印刷したい静止画を選ぶ



8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

9 手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10 MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- [接続中・・・] と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、[ダイレクトプリント] と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目については、P.122 をご覧ください。



4

12 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 手順11と12を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

14 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、[送信中] 画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。



メモ

- プリンターのマーク (🖨️) が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で [プリンター指定] を選ぶと、プリンター側の設定値 (初期値) で印刷されます。

帳票印刷する

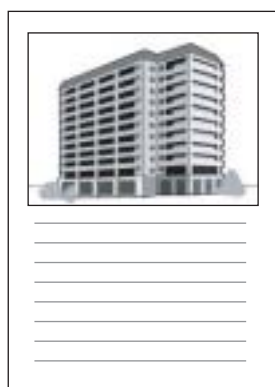
ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定してください。
[帳票印刷]は、メニュー画面で[用紙サイズ]を[A4]に設定したあと、PictBridgeに対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ、有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ (<http://www.ricoh.co.jp/office/>) をご覧ください。

選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト例

1コマ罫線あり 1コマ罫線なし 工事写真1	2コマ罫線あり 2コマ罫線なし 記事欄付1	3コマ罫線あり 3コマ罫線なし 追加帳票1～10	4コマ罫線あり 4コマ罫線なし
-----------------------------	-----------------------------	--------------------------------	--------------------

帳票印刷の例



1コマ罫線あり



2コマ罫線あり

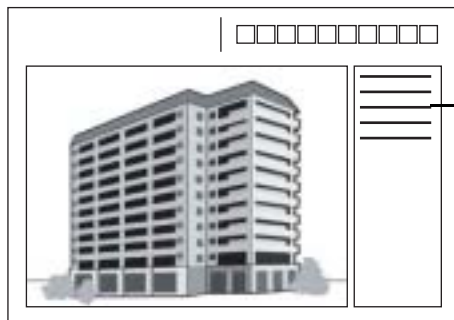


工事写真1

帳票印刷にカメラメモを印字する

ダイレクトプリントのメニューで [帳票印刷] を設定し、[帳票カメラメモ印字] を [ON] にすると、帳票印刷にカメラメモを付けて印刷できます。

帳票カメラメモ印刷の例



カメラメモの内容が印刷されます。印刷される位置は、[帳票印刷] で設定したレイアウトによって異なります。

記事欄付1



メモ

カメラメモについては、『使用説明書 (ソフトウェア編)』をご覧ください。

5 カメラの設定を変える

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー (P.64) や再生設定メニュー (P.100) からセットアップメニューを表示して、カメラの設定変更ができます。セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
初期化 [カード]	_____	P.130
初期化 [内蔵メモリー]	_____	P.131
LCD輝度調節	_____	P.132
マイセッティング登録	[設定1]、設定2	P.133
ズーム設定	[高速ズーム]、低速ズーム、ステップズーム	P.135
ISO AUTO-HI 設定	[AUTO 400]、AUTO 800、AUTO1600	P.136
サブファイルサイズ	1280 [1M]、640 [VGA]、480、 320 [QVGA]	P.137
オートパワーオフ	OFF、[1分]、5分、30分	P.138
ブザー音	[すべて]、シャッター音	P.139
操作音音量設定	なし (□□□)、小 (■□□)、 中 [(■□□)]、大 (■□□■)	P.140
画像確認時間	OFF、[0.5秒]、1秒、2秒、3秒	P.141
デジタルズーム切替	[通常]、オートリサイズ	P.142
ADJ.ボタン設定1* ¹ ADJ.ボタン設定2* ² ADJ.ボタン設定3* ³ ADJ.ボタン設定4* ⁴	[OFF] * ⁴ 、[露出補正] * ¹ 、[ホワイトバランス] * ² 、[ISO] * ³ 、画質、フォーカス、シャープネス、測光方式、連写、オートブラケット	P.144
AF補助光	[ON]、OFF	P.145
撮影アイコン拡大	ON、[OFF]	P.146
CARD連続NO.	ON、[OFF]	P.147
日時設定	_____	P.149
Language / 言語*	日本語、English、Deutsch、Français、 Italiano、Español、Русский、简体中文、 繁体中文、한국어	P.150
ビデオ方式*	NTSC、PAL	P.151

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

セットアップメニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。

▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

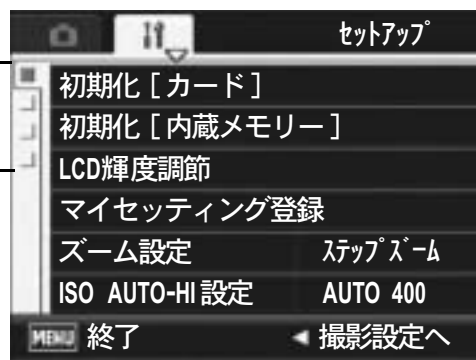
1 MENU/OKボタンを押す

- ・撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ▶ボタンを押す

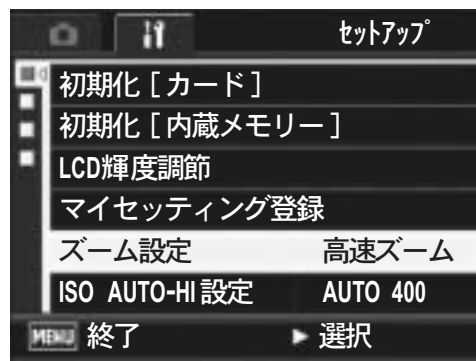
- ・セットアップメニューが表示されます。

設定画面が4画面あることを示しています。



3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- ・一番下の項目で▼ボタンを押すと、次の設定画面が表示されます。



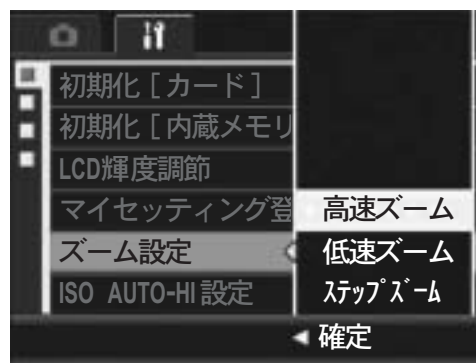
4 ▶ボタンを押す

- ・設定項目の選択肢が表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- ・セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- ・設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、再度MENU/OKボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。



メモ

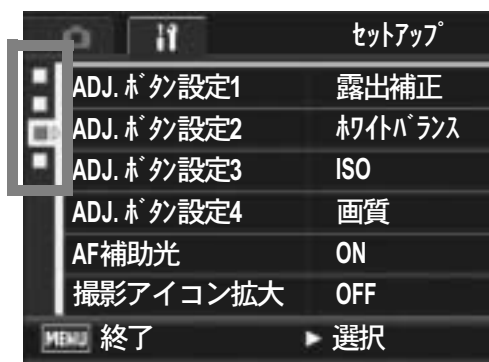
機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。



画面の切り替え

タブで画面を切り替えることができます。

- 1 ◀ ボタンを押すと、画面左のタブが選択できる状態になります。
- 2 ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
- 3 ▶ ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



SDメモリーカードを使えるようにする (初期化 [カード])

[使用できないCARDです。] 等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンなど他の機器で使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。

初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。



注意

画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

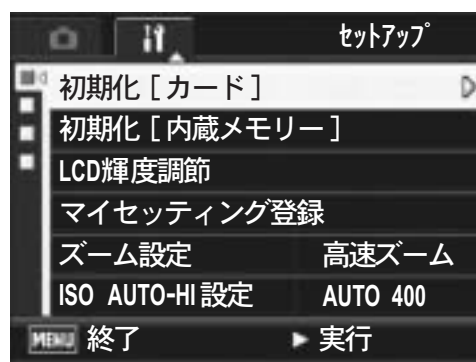
初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [初期化 [カード]] を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。



3 ◀▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SDメモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENU/OKボタンを押す



誤って画像を消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくこと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります (P.21)。「LOCK」を解除する (スイッチを元の状態に戻す) と、撮影や削除、初期化が可能な状態に戻ります。

内蔵メモリーを初期化する (初期化 [内蔵メモリー])

[内蔵メモリーを初期化してください。] というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。



注意

内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されている画像はすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。(P.112)

初期化するには、次のように操作します。

1

セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2

▼ボタンを押して [初期化 [内蔵メモリー]] を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

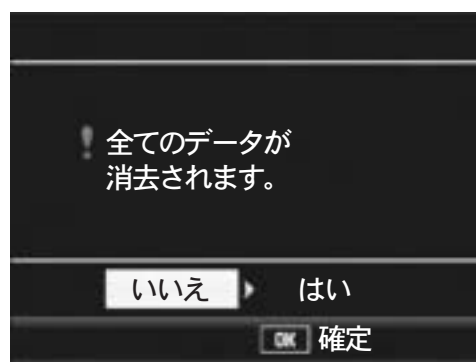
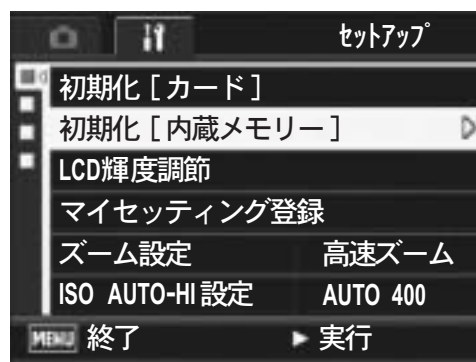
3

◀▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

4

MENU/OKボタンを押す



液晶モニターの明るさを調節する (LCD輝度調節)

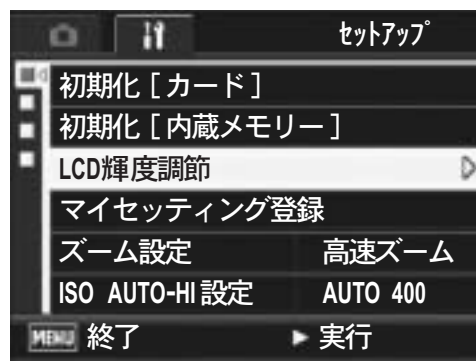
液晶モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[LCD輝度調節]を選び、▶ボタンを押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。



3 ▲▼ボタンを押して、明るさを調節する


- LCD 輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。




4 設定したい明るさになったら、MENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

 **DISP.ボタンで明るさを調整するには** -----
撮影時にDISP.ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。輝度が最大のときにDISP.ボタンを押し続けると、[LCD輝度調節]で設定した明るさに戻ります。

 **メモ** -----
液晶モニターを点灯した状態で数秒間放置すると、節電のため液晶モニターが暗くなる場合があります。その場合、カメラを動かすと元に戻ります。

自分好みの設定を登録する (マイセッティング登録)

マイセッティング機能を使うと、簡単に自分好みの設定で撮影することができます。

マイセッティングは2種類登録でき、モード切替スイッチをMY (マイセッティングモード) に合わせて、[マイセッティング1] または [マイセッティング2] を呼び出して切り替えることができます。(P.37)

現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

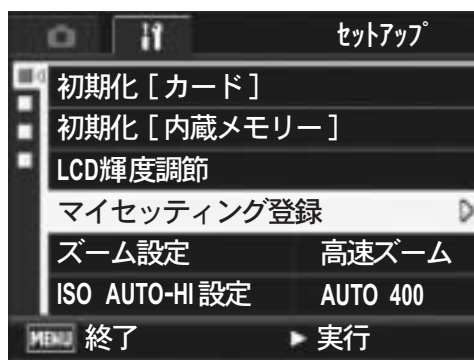
1 マイセッティングにしたい値に、カメラの設定を変更する

2 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

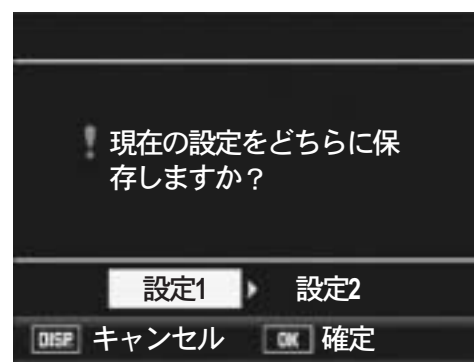
3 ▼ボタンを押して、[マイセッティング登録]を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。



4 [設定1] または [設定2] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。



5 MENU/OKボタンを押す

マイセッティングで保持される内容

画質・サイズ
フォーカス
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
測光方式
シャープネス
連写
色の濃さ
露出補正
長時間露光
日付入れ撮影
ホワイトバランス
ISO感度
スローシャッター速度制限
手ブレ補正
ズーム位置
マクロ
フラッシュモード
シーンモード
セルフタイマー
DISP.モード
撮影アイコン拡大
デジタルズーム切替
ズーム設定
サブファイルサイズ
デュアルサイズ記録
文字濃度
フレームレート

5

カメラの設定を変える

ズームの設定を変更する（ズーム設定）

ズームの設定を以下のとおり変更することができます。

設定できる値	
高速ズーム ※購入時の設定	ズーム速度が早くなります。
低速ズーム	ズーム速度が遅くなります。
ステップズーム	ズームの焦点距離を、7段階（28mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mm：35mmフィルムカメラ換算）に固定します。

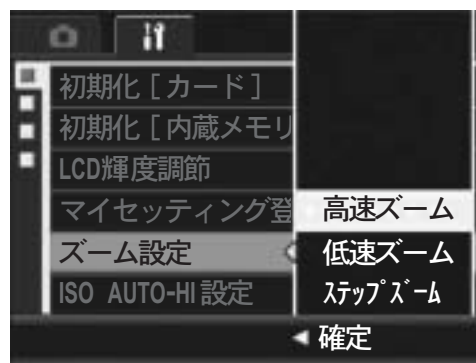
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ズーム設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



メモ

[ステップズーム] を設定している場合、マクロモード時の焦点距離は35mmフィルムカメラ換算でおよそ31mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mmになります。

ISO AUTO-HI の設定を変える (ISO AUTO-HI 設定)

撮影設定メニューの [ISO感度] で設定する [AUTO-HI] (高感度設定オート) (P.90) のISO感度の上限を変更することができます。

設定できる値

AUTO 400 ※購入時の設定

AUTO 800

AUTO1600

高感度設定オートの設定を変更するには、次のように操作します。

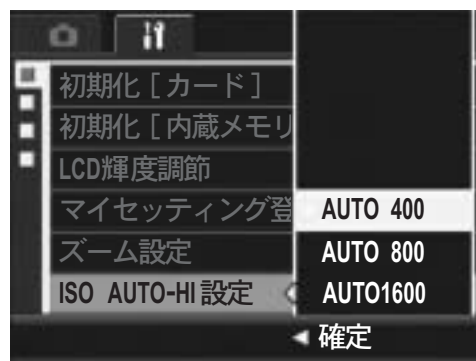
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ISO AUTO-HI 設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



メモ

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

デュアルサイズ記録のサイズを変える (サブファイルサイズ)

サブファイル付き画像を撮影する際 (P.94) の、オリジナル画像と同時に保存されるサブファイルのサイズを設定します。

設定できる値

1280 [1M]

640 [VGA]

480

320 [QVGA] ※購入時の設定



注意

オリジナルの [画像・サイズ] が [N1280(1M)] のとき、[サブファイルサイズ] で [1280(1M)] を選ぶと、サブファイルは作成されません。

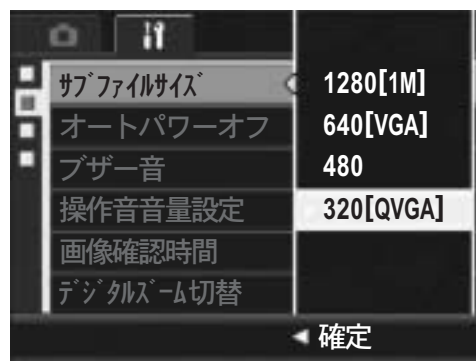
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [サブファイルサイズ] を選び、▶ボタンを押す。

3 ▲▼ボタンを押して設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



オートパワーオフの設定を変える (オートパワーオフ)

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。

購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

設定できる値

OFF（オートパワーオフ機能は働きません）

1分 ※購入時の設定

5分

30分

オートパワーオフの設定を変更するには、次のように操作します。

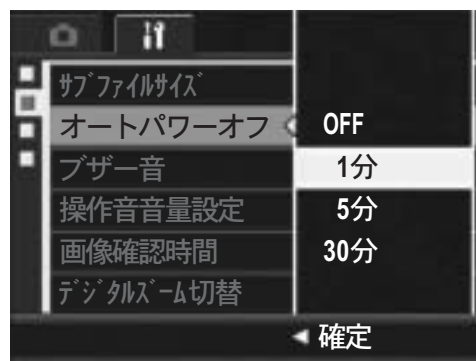
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[オートパワーオフ] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



メモ

- オートパワーオフによって電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、POWER（電源）ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- オートパワーオフは、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- インターバル撮影をするときは、[オートパワーオフ] の設定は無効になり、オートパワーオフは働きません。

ブザー音の設定を変える（ブザー音）

カメラの操作中は、起動音、シャッター音、フォーカスが合ったときの音、警告音の4種類のブザー音が鳴ります。

起動音 : カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。

シャッター音 : シャッターボタンを押したときに鳴ります。

フォーカスが合ったときの音 : シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。

警告音 : 実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。

設定できる値

すべて（すべて鳴らす）※購入時の設定

シャッター音（シャッター音、警告音のみ鳴らす）

ブザー音の設定を変更するには、次のように操作します。

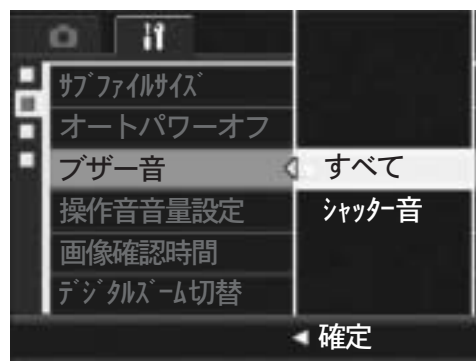
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ブザー音] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



ブザー音の音量を変える（操作音音量設定）

ブザー音の音量を変更できます。

設定できる値

□□□（なし）

■□□（音量小）

■■□（音量中）※購入時の設定

■■■（音量大）

ブザー音の音量を変更するには、次のように操作します。

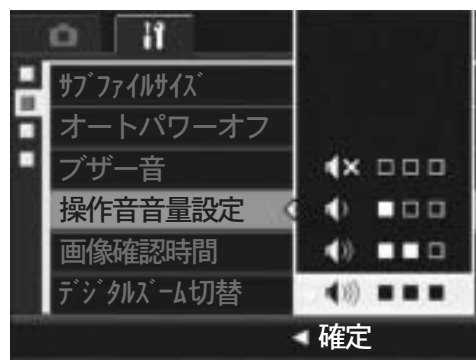
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[操作音音量設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には0.5秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

設定できる値

OFF（確認のための表示を行わない）

0.5秒 ※購入時の設定

1秒

2秒

3秒

確認時間を変更するには、次のように操作します。

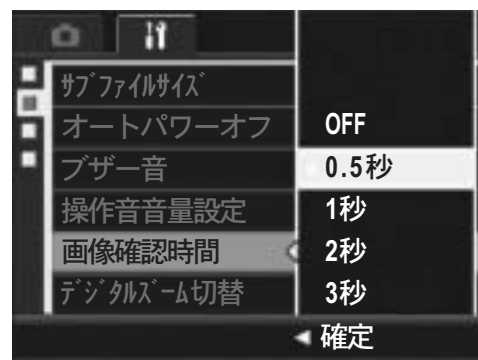
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[画像確認時間]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



注意

画像確認時間を0.5秒に設定した場合は、確認のための画像が表示されている間、ズームバー等のマークも表示されたままになります。

オートリサイズズームを使う (デジタルズーム切替)

撮影する画像から必要な部分を切り出して記録します。通常のデジタルズームは、設定した画像サイズまで画像の一部を拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは切り出した部分をそのまま記録するので、画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。オートリサイズズームは、[画質・サイズ] を3264×2448に設定しているときのみ働きます。(P.67)

選択できる設定

設定	内容
通常	[画質・サイズ] で設定した画像サイズで記録します。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。



メモ

[画質・サイズ] が3264×2448以外の場合は、デジタルズームが有効になります。

5

カメラの設定を変える

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

ズーム倍率	7.1倍	7.1×1.3倍	7.1×1.6倍	7.1×2.5倍	7.1×5.1倍
画像サイズ	3264×2448 (8M)	2592×1944 (5M)	2048×1536 (3M)	1280×960 (1M)	640×480 (VGA)

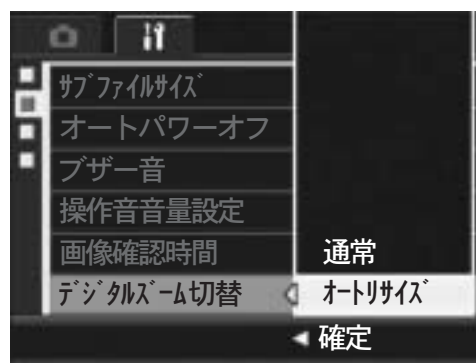
1 セットアップメニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [デジタルズーム切替] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[オートリサイズ] を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



5 ズームレバーを [▲] (望遠) 側に
回し続け、ズームバー表示が [▲]
(望遠) 側の端まできたらいった
んズームレバーから指を離し、再
びズームレバーを [▲] (望遠) 側
に回す



- さらにズームレバーを [▲] (望遠) 側に
回すごとに、1段階ずつ画像サイズを
変更して記録されます。
- 記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。



注意

連写の場合、またはシーンモードの [斜め補正] の場合は、[オートリ
サイズ] に設定していてもデジタルズームが有効になります。

ADJ.ボタンに機能を設定する (ADJ.ボタン設定)

ADJ.ボタンに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、少ないボタン操作で撮影に関するいろいろな設定画面を表示できます。

[ADJ.ボタン設定1] ～ [ADJ.ボタン設定4] で、ADJ.ボタンを押して表示できる機能を登録します。

設定できる値		参照先
OFF	※購入時 [ADJ.ボタン設定4] の設定	—
露出補正	※購入時 [ADJ.ボタン設定1] の設定	P.87
ホワイトバランス	※購入時 [ADJ.ボタン設定2] の設定	P.88
ISO	※購入時 [ADJ.ボタン設定3] の設定	P.90
画質		P.67
フォーカス		P.69
シャープネス		P.73
測光方式		P.72
連写		P.74
オートブラケット		P.79

5

カメラの設定を変える

[ADJ.ボタン設定1] ～ [ADJ.ボタン設定4] に機能を設定するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ADJ.ボタン設定1]、[ADJ.ボタン設定2]、[ADJ.ボタン設定3]、[ADJ.ボタン設定4] のいずれかを選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



メモ

ADJ.ボタンの操作方法は、P.60を参照してください。

AF補助光の設定を変える (AF補助光)

オートフォーカスでの撮影時に、AF補助光を発光するかしないかを設定できます。

[AF補助光] を [ON] に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光し、AF測距を行います。

AF補助光の設定を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[AF補助光] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



注意

[AF補助光] を [ON] に設定し、周囲が暗い場合でも、発光しないことがあります。

アイコンを大きく表示する (撮影アイコン拡大)

マーク表示 (P.55) のときに、撮影画面の以下のアイコンを大きく表示することができます。

フラッシュ、マクロ撮影、セルフタイマー、ホワイトバランス、フォーカス、露出補正、ISO感度

アイコンを大きく表示すると、次のマークは表示されません。

ズームバー/フォーカスバー、日付入れ撮影、シャープネス、色の濃さ

撮影画面のアイコンを大きく表示するには、次のように操作します。

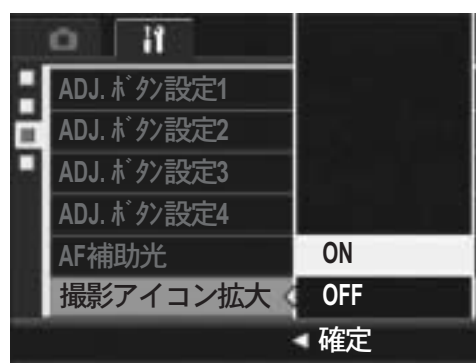
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [撮影アイコン拡大] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



ファイル名の設定を変える (CARD連続NO.)

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。

SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定できる値	
ON (連番にする)	撮影した静止画に、R0010001.jpg～R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを入れ替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF (連番にしない) ※購入時の設定	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg～RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 RIMG9999を超えると、それ以上は記録できません。

ファイル名の設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[CARD連続NO.] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す





メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合は、常に [CARD 連続NO.] が [OFF] の場合と同様のファイル名になります。
- RICOH Gate Laを使ってパソコンに転送する (P.166) 際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、[CARD 連続NO.] を [ON] に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」(****は番号) で保存されます。
- RIMG9999 を超えると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してからお使いください。

日付・時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[日時設定]を選び、▶ボタンを押す



3 ▲▼◀▶ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ・ ▲▼ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- ・ ◀▶ボタンを押すと、次の項目へ移動することができます。



4 [書式] で日時の書式を選ぶ

5 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- ・ 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。

6 MENU/OKボタンを押す



メモ

- ・ 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- ・ 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

表示言語を変える (Language / 言語)

液晶モニターに表示される言語を変更することができます。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値

日本語

English (英語)

Deutsch (ドイツ語)

Français (フランス語)

Italiano (イタリア語)

Español (スペイン語)

Русский (ロシア語)

简体中文 (中国語：簡体字)

繁体中文 (中国語：繁体字)

한국어 (韓国語)

表示言語を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[Language / 言語] を選び、▶ボタンを押す

- 言語選択画面が表示されます。



3 ▲▼◀▶ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す



5

カメラの設定を変える

テレビで見るときの再生方式を変える (ビデオ方式)

付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。(P.117)

テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。

購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値

NTSC

PAL

ビデオ方式を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.128を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ビデオ方式] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンまたは◀ボタンを押す

- ビデオ方式が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す



メモ

SECAM方式には対応していません。

6 画像をパソコンに取り込む

画面の表示は、ご使用のパソコンのOSによって異なります。

Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.170をご覧ください。

画像をパソコンに取り込むには、以下の2種類の方法があります。

- 付属のソフトウェアRICOH Gate Laを使用して、自動的に画像の一括取り込みを行う。この場合は、付属のCaplio Software CD-ROMからソフトウェアをインストールしておく必要があります。
- RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む。



メモ

画像をパソコンに取り込む方法の詳細については、Caplio Software CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.154を参照してください。

Caplio Software CD-ROMの構成

Caplio Software CD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。



項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.154
使用説明書(ソフトウェア編)を見る	『使用説明書(ソフトウェア編)』(PDF)を表示することができます。	P.154
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.155
RICOHホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。(インターネットに接続できる状態の場合)	—
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。(インターネットに接続できる状態の場合)	—
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。(インターネットに接続できる状態の場合)	—

【ソフトウェアのインストール】をクリックする (P.157)

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明	
Caplio Software	RICOH Gate La	画像をパソコンに一括取り込みします。
	List Editor	カメラメモリストを作成するときに使います。
Irodio Photo & Video Studio	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。	
USBドライバー	リコーの過去機種とWindows 98SE/Me/2000を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。	
WIAドライバー	リコーの過去機種とWindows XP/Vistaを接続するときに使います。本カメラでは使用しません。	



メモ

本機は、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアIrodio Photo & Video Studioを付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studioについての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ (<http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html>) を参照してください。

6

画像をパソコンに取り込む

【使用説明書 (ソフトウェア編) を見る】をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書 (ソフトウェア編)』(PDFファイル)を表示します。

すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。(P.160)

【CD-ROMの内容を見る】をクリックする

CD-ROM内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROMには、[ソフトウェアのインストール] をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、次のソフトウェアが収められています。Windows環境では、これらのソフトウェアをご使用いただけます。

各ソフトウェアのインストールについては、下表の「参照先」に記載したページをご覧ください。

ソフトウェア名	説明	参照先
Acrobat Reader	『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。	P.160
Ridoc Desk Navigator Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。	P.161
Caplio Transfer Software	画像をRidocに登録したり、カメラメモの内容によって分類してパソコンのフォルダに転送・保存したりするためのソフトウェアです。	P.163



メモ

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltについては、Ridoc Desk Navigator Ltに付属の『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。
- Caplio Transfer Softwareで画像を転送する方法については、CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を参照してください。
- 「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内のIrodio Photo & Video Studio.exeをダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studioのみをインストールすることができます。
- Ridoc Desk Navigator LtはWindows Vistaに対応していません。
- Caplio Transfer SoftwareからRidoc Navigator Ltへの画像転送機能は、Windows Vistaには対応していません。

Caplio Software CD-ROMを使うために必要な環境

Caplio Software CD-ROMを使うためには、次の環境が必要です。ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 2000 Professional (日本語版) Windows Me (日本語版) Windows XP Home Edition (日本語版) / Professional (日本語版) Windows Vista (日本語版)
CPU	Windows 2000/Me/XP : Pentium® III 500MHz以上 Windows Vista : Pentium® III 1GHz以上
メモリー	Windows 2000/Me/XP : 256MB以上 Windows Vista : 512MB以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB以上
ディスプレイの解像度	1024×768ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート



注意

- Windows 98/98SEには対応していません。
- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OSのシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能 (PCIバスなど) を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

画像の一括取り込みや編集を行うためのソフトウェアをインストールする

注意

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- 従来機種 of Caplio Software CD-ROM からすでにソフトウェアをインストールしている場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとする、従来機種 of ソフトウェアをアンインストールしてからインストールするようメッセージが表示されます。
この場合は、メッセージに従って従来機種 of ソフトウェアをアンインストールし、新しいソフトウェアをインストールしてください。従来機種 of ソフトウェアもこれまでと同様にお使いいただけます。
DU-10 がインストールされている場合は、Caplio Viewer (DU-10 の機能強化版) に置き換わります。メッセージが表示される前に従来機種 of ソフトウェアをアンインストールした場合は、新しいソフトウェアをインストールしても Caplio Viewer はインストールされません。(アンインストール方法 P.164)
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000 の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- RICOH Gate La はネットワーク環境には対応していません。スタンドアロンとしてご使用ください。

ここでは Windows XP の画面例を使用しています。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属の Caplio Software CD-ROM をセットする

Windows Vista 以外の OS の場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vista の場合

- 自動再生画面が表示されます。
- [Autorun.exe の実行] を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。



2 [ソフトウェアのインストール] をクリックする

Windows Vista以外のOSの場合

- しばらくすると [設定言語の選択] 画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の [許可] を選択してください。しばらくすると [設定言語の選択] 画面が表示されます。

3 言語を選択し、[OK] をクリックする

- [Caplio Software用のInstallShield Wizardへようこそ]画面が表示されます。

4 [次へ] をクリックする

- [インストール先の選択]画面が表示されます。



5 インストール先を確認して [次へ] をクリックする

- [プログラムフォルダの選択]画面が表示されます。



6 プログラムフォルダを確認して [次へ] をクリックする

- 続けてIrodio Photo & Video Studioのインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。



- Irodio Photo & Video Studioのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。



7 [完了] をクリックする

- Caplio Softwareのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 [完了] をクリックする


9 パソコンを再起動する

- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

10 RICOH Gate La for DSCの [ブロックを解除する] ボタンをクリックする



メモ-----

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（ P.164）

その他のソフトウェアをインストールする

注意

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

Acrobat Reader

Acrobat Readerは、使用説明書（PDF ファイル）を表示するためのソフトウェアです。

Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。



2 [CD-ROMの内容を見る]をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Acrobat] フォルダをダブルクリックする

4 [Japanese] フォルダをダブルクリックする

5 [ar505jpn] (ar505jpn.exe) をダブルクリックする

- Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。[続行] を選択してください。

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

Ridoc Desk Navigator Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。



メモ

- Ridoc Desk Navigator Ltは日本国内向けのアプリケーションです。他の言語環境では使用できません。
(Ridoc Desk Navigator Lt is only available in Japanese. Other languages are not supported.)
- Ridoc Desk Navigator Ltの使用方法については、Ridoc Desk Navigator Ltと同時にインストールされる『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。
- Ridoc Desk Navigator LtはWindows Vistaに対応していません。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 [CD-ROMの内容を見る] をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Ridoc Desk] フォルダをダブルクリックする

4 [RDLaunch.exe] をダブルクリックする

5 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする

- インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。



注意

- 本カメラでは、Auto Documentリンクの監視先に [Caplioデジタルカメラ] を指定することはできません。最新の対応情報は、弊社のホームページ (<http://www.ricoh.co.jp>) を参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltは、Ridoc Desk Navigator、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Desk 2000、Job Binderと共存することができません。Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする場合は、元のアプリケーションをアンインストールしてから行ってください。そのとき、元のアプリケーションで使用していたデータはそのまま保存され、引き続き使用することができます。ただし、元のアプリケーションがRidoc Desk 2000の場合、いくつかの機能が使用できなくなりますので、ご注意ください。
- カメラをパソコンに接続し、Ridoc Desk Navigator Ltを開いたままカメラの電源をオフ/オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

Caplio Transfer Software

画像をRidocに登録したり、カメラメモリ画像をカメラメモの内容によって分類してパソコンのフォルダに転送し、保存したりするためのソフトウェアです。



メモ

- Caplio Transfer Softwareの使用方法については、CD-ROM内のReadmeファイル(Readme.txt)か、『使用説明書(ソフトウェア編)』(PDFファイル)を参照してください。
- Caplio Transfer SoftwareからRidoc Navigator Ltへの画像転送機能は、Windows Vistaには対応していません。



注意

Caplio Transfer Softwareをインストールする前に、Caplio Softwareをインストールしてください。(P.157)

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 [CD-ROMの内容を見る] をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Caplio Transfer] フォルダをダブルクリックする

4 [InstTrns] (InstTrns.exe) をダブルクリックする

- Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。[続行]を選択してください。



5 Caplio Transfer Softwareのボタンをクリックする

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Caplio Transfer Softwareをインストールする



ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意

- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Caplio Software

- 1** Windowsのタスクバーから [スタート] をクリックする
- 2** [設定] - [コントロールパネル] (XPの場合は [コントロールパネル]) を選択する
- 3** [アプリケーションの追加と削除] アイコン (XPの場合は [プログラムの追加と削除] アイコン) をダブルクリックする
- 4** [Caplio Software] を選択し、[変更と削除] をクリックする
- 5** ファイル削除のメッセージを確認し、[OK] をクリックする
 - [共有ファイルの検出] ダイアログが表示されます。
- 6** [次回からこのメッセージを表示しない]のチェックボックスにチェックを入れて、[はい] をクリックする
 - 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

Irodio Photo & Video Studio

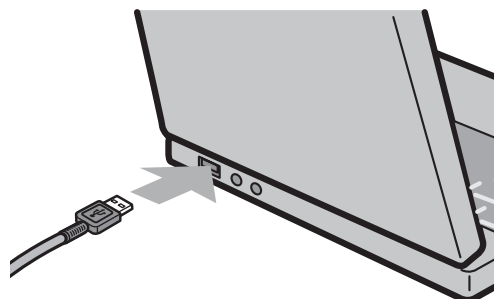
- 1** Windowsのタスクバーから [スタート] をクリックする
- 2** [設定] - [コントロールパネル] (XPの場合は [コントロールパネル]) を表示する
- 3** [アプリケーションの追加と削除] アイコン (XPの場合は [プログラムの追加と削除] アイコン) をダブルクリックする
- 4** [Irodio Photo & Video Studio] を選択し、[変更と削除] をクリックする
- 5** ファイル削除のメッセージを確認し、[OK] をクリックする
 - ・ 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。
- 6** パソコンを再起動する

RICOH Gate Laを使用して画像を一括取り込みする

ソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。

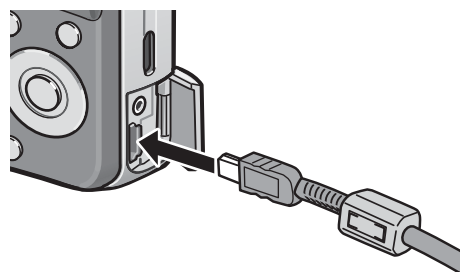
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する



3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

- カメラの電源がオンになり、必要なファイルが自動的に読み込まれます。



4 RICOH Gate Laが起動して、自動的に画像の転送が開始される

5 画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する (P.169)

6

画像をパソコンに取り込む



メモ

- RICOH Gate Laの使いかたについては、CD-ROM内の「使用説明書 (ソフトウェア編)」(PDFファイル) をご参照ください。(P.153)
- 画像の転送が始まらない場合は、パソコンを再起動して1~5の操作をもう一度お試しください。



注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

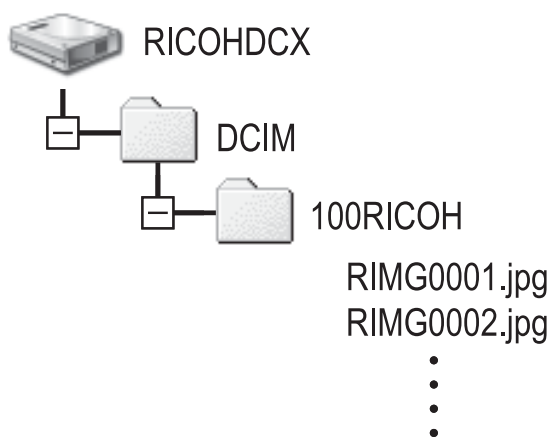
- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、[マイコンピュータ] にドライブとして表示されます。



Windows XPでの表示例

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は[RICOHDCI] になります。



Windows XPでの表示例

注意

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされません。上書きしたくない場合は、別のフォルダに取り込むか、取り込み先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

メモ

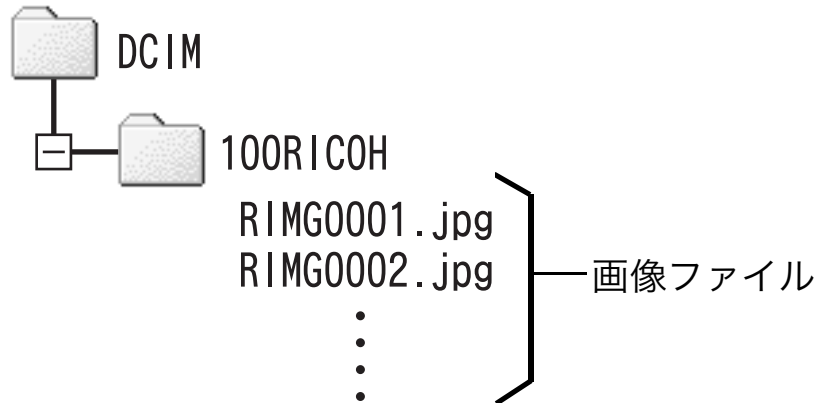
表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。



SDメモリーカードから画像を取り込む-----

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。



Windows XPでの表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。接続されるパソコンのOSのタイプ、使用されるSDメモリーカードの容量に対応したカードリーダーをお使いください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください。(表示はWindows XPの例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。)

- 1** タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする
- 2** [USB大容量記憶装置デバイス] を選び、[停止] をクリックする
- 3** [USB 大容量記憶装置デバイス] が選ばれていることを確認して、[OK] をクリックする
- 4** [OK] をクリックする
- 5** USBケーブルを取り外す



メモ

- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintoshをご使用の場合

Windowsをご使用の場合はP.152をご覧ください。

本カメラは、以下のOSに対応しています。

- Mac OS 9.0 ~ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ~ 10.4.9

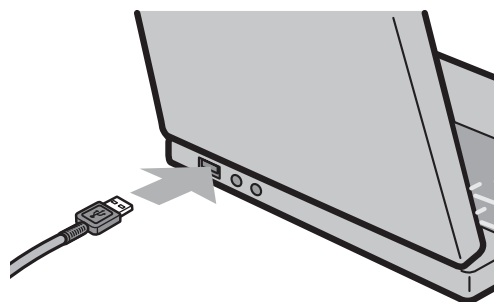


注意

Mac OS 8.6には対応していません。

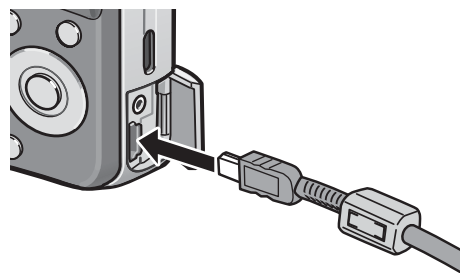
画像をパソコンに取り込む

- 1 カメラの電源がオフになっていることを確認する
- 2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する



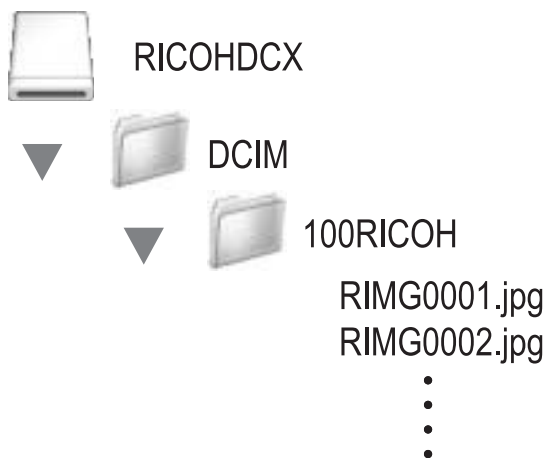
- 3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。



- 4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は[RICOHDCI]になります。



注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USBケーブルを取り外す



メモ

- Mac OS 9の場合は [特別] メニューで、Mac OS Xの場合は [ファイル] メニューで [取り出し] を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintoshに接続すると、SDメモリーカードに「Finder.DAT/DS_Store」が書き込まれる場合があります、カメラでは [表示できないファイルです。] と表示されます。気になる場合は、SDメモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

液晶モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
CARDを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.24
セットアップメニューから日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.149
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.147
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	—
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.21
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.108
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.21
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	—
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.51 P.130 P.131
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	—
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.131
CARDを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.130
使用できないCARDです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示される場合は、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.130
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	—
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	—
記録できません。	撮影可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.21
ファイル復元可能なファイルが見つかりません。	復元できるファイルがありません。	P.116

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。	P.24 P.23
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.20
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.26
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.24
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.26
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。	P.23
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.20
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。	P.24
充電したばかりなのに： <ul style="list-style-type: none"> • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。 	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.20
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいリチャージャブルバッテリーに交換する。	P.24
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	—	—
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多。	—	—

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。	P.23
	電源が入っていない。または撮影モードになっていない。	POWER (電源) ボタンを押して、電源をオンにする。または▶ (再生) ボタンを押して撮影モードにする。	P.26 P.46
	再生モードになっている。	▶ (再生) ボタンを押して撮影モードにする。	P.46
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.30
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.130
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.51 P.24
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.24
	フラッシュが充電中。	フラッシュモードのマークの点滅が終了するまで待つ。	P.35
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK (書き込み禁止)」を解除する。	P.21
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	—
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.141
液晶モニターに映らない。	電源が入っていない。または液晶モニターが暗い。	電源を入れる。または液晶モニターの明るさを調整する。	P.26 P.132
	ビデオケーブル/AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル/AVケーブルを抜く。	P.117
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.55
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズまたはAF窓が汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	P.14
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.30
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.30 P.70
ピントが合っていないのに、液晶モニター中央に緑の枠が表示される。	被写体との距離が近すぎるため、疑合焦された。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.34

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。 三脚を使用する。 手ブレ補正機能を使う。	P.28 P.93
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO感度を上げる。 手ブレ補正機能を使う。	P.35 P.90 P.93
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 ・オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット ・連写モード ・動画モード また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.35 P.79 P.80 P.82 P.74 P.96 P.186
	フラッシュが発光禁止になっている。	⚡（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.35
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。	P.23
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、望遠時で約2.0m以上、広角時で約3.0m以上離れている。	被写体に近づいて撮影する。	P.35
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正值に連動します）。	P.87
ADJ.ボタンの機能が使用できない。	SDメモリーカードにカメラメモリストが保存されている。	SDメモリーカード内の[TEMPLATE]フォルダの*.mtaファイルを削除する。	—
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.35
	露出がオーバーしている。	露出補正を行う。 長時間露光を解除する。	P.87 P.83
	液晶モニターの明るさが適切でない。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.132
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	⚡（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.35
	露出が不足している。	露出補正を行う。 長時間露光を設定する。	P.87 P.83
	液晶モニターの明るさが適切でない。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.132
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.88
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.55

症状	原因	処置	参照先
AF動作中、液晶モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なる時、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	—
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	—

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶ (再生) ボタンを押す。	P.46
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.117
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.151
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.24
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.24 P.130
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	—
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	—
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	—
	画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。
何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。		電源を再投入する。	P.26

症状	原因	処置	参照先
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.108
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK (書き込み禁止)」を解除する。	P.21
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK (書き込み禁止)」を解除する。	P.21

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.24
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。	P.23
	カメラの誤動作。	POWER (電源) ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWER (電源) ボタンを押して、電源をオンにする。 電池をセットしなおす。	P.26 P.24
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.149
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.149
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが[OFF]になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.138
ブザー音が鳴らない。	消音を設定されている。	[操作音音量設定]で音量なし以外を設定する。	P.140
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.151
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.117
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	—

ソフトウェア/パソコンのトラブル

ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Windows XP Service Pack2、Windows Vistaでの警告メッセージについて

Windows XP Service Pack2またはWindows Vistaがインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下のような警告メッセージが表示される場合があります。以下を参考にしてください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

警告メッセージが表示されたら

- 1 名前、発行元を確認し [ブロックを解除する] ボタンをクリックする



注意

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので [ブロックする] をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

[ブロックする] ボタンをクリックした場合

Windows ファイアウォールの設定を確認します。

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] の順にクリックする
- 2 [Windows ファイアウォール] をダブルクリックする

- [Windows ファイアウォール] がない場合はウィンドウ左上の [クラシック表示に切り替える] をクリックしてください。



3 [例外] タブをクリックする

4 [プログラムおよびサービス] 内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 [プログラムの追加] ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する



[後で確認する] ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、[Windows セキュリティの重要な警告] ウィンドウが表示されるので、その際に [ブロックを解除する] を選択できます。

主な仕様

総合

ビデオ信号方式	NTSC方式、PAL方式
電源電圧	リチャージャブルバッテリー DB-70 (3.6V) × 1本
外形寸法 (幅) × (高さ) × (奥行)	99.6 × 55.0 × 23.3 (最薄部20.6) mm (突起部含まず)
質量	本体 約135g (電池/ストラップを除く) 付属品 約26g (電池/ストラップ)
三脚ネジ穴形状	1/4-20UNC
使用温度範囲	0°C~40°C
使用湿度範囲	85%以下
保存温度範囲	-20°C~60°C

カメラ部

使用撮像素子	総画素数829万画素 (有効画素数815万画素)、1/2.5型原色CCD
レンズ	
レンズ	7.1倍光学ズームレンズ 明るさ (F値) : F3.3 (W) ~5.2 (T)
焦点距離	4.6~33mm (35mm換算28~200mm)
撮影距離	約0.3m~∞ (広角)、約1.0m~∞ (望遠)
マクロ撮影距離	約0.01m~∞ (広角)、約0.25m~∞ (望遠)、 約0.01m~∞ (ズームマクロ)
デジタルズーム	4.8倍
モニター表示部	
画面サイズ	2.7型
種類	透過型アモルファスシリコンTFT液晶
画素数	約23万画素
ホワイトバランス	AUTO/固定 (屋外、曇天、白熱灯、白熱灯2、蛍光灯、手動設定)
露出調整	
測光感度分布	マルチ測光 (256分割)、中央重点測光、スポット測光
露出補正	マニュアル露出補正±2.0EV (1/3EVステップ)
測光方式	TTL-CCD測光方式
フラッシュ AE	あり (日中シンクロ あり)
シャッター	静止画 : 8、4、2、1~1/2000秒 動画 : 1/30~1/2000秒
ISO感度設定 (標準出力感度)	AUTO、AUTO-HI、ISO64 / ISO100 / ISO200 / ISO400 / ISO800 / ISO1600

距離調節	
AF方式	通常撮影領域：CCD方式 マクロ領域：CCD方式
AF測距範囲	通常撮影領域：約0.3m～∞、マクロ時：約0.01m～∞
内蔵フラッシュ	
方式	プリ発光方式
撮影距離	約0.2～3.0m（広角）、約0.25～2.0m（望遠）（ISO: AUTO）
動作モード	発光禁止／オート／赤目軽減／強制発光／ソフト発光／スローシンクロ
データ保持時間	約1週間

画像データ録再部

画素数（ピクセル）	
静止画	3264×2448、3264×2176、2592×1944、2048×1536、1280×960、640×480
文字	3264×2448、2048×1536
動画	640×480、320×240
ファイルフォーマット	
静止画	JPEG（Exif Ver.2.21）
文字	JPEG（Exif Ver.2.21）
動画	AVI（Open DML Motion JPEGフォーマット準拠）
カメラファイルシステム規格	DCF ※DCFはJEITAで標準化された『Design rule for Camera File System』規格の略称です。
圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠（静止画、動画）
画像サイズ	
3264×2448	N：約1673KB／画面、F：約2902KB／画面
3264×2176	F：約2584KB／画面
2592×1944	N：約1068KB／画面
2048×1536	N：約680KB／画面
1280×960	N：約365KB／画面
640×480	N：約95KB／画面

入出力端子

ビデオ出力	1.0Vp-p（75Ω）
USB端子	USB2.0 High-Speed（mini Bタイプ）認証取得予定

記録再生可能なメモリーカードの種類

メモリー種類	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、マルチメディアカード
--------	----------------------------------

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質	画像サイズ	内蔵	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
静止画	F	3264×2448	7	39	78	157	303	614	1206
	N	3264×2448	13	68	135	273	525	1059	2080
	F	3264×2176	8	44	88	177	341	690	1356
	N	2592×1944	21	107	213	430	828	1661	3261
	N	2048×1536	31	165	331	667	1285	2560	5027
	N	1280×960	58	300	599	1208	2323	4726	9282
	N	640×480	219	1117	2227	4488	6632	15359	30159
文字		3264×2448	13	68	135	273	525	1059	2080
		2048×1536	31	165	331	667	1285	2560	5027
動画		640×480 (15コマ/秒)	36秒	3分 4秒	6分 7秒	12分 19秒	23分 42秒	48分 13秒	99分 8秒
		640×480 (30コマ/秒)	18秒	1分 33秒	3分 5秒	6分 14秒	11分 59秒	24分 23秒	50分 10秒
		320×240 (15コマ/秒)	1分 10秒	5分 59秒	11分 57秒	24分 5秒	46分 19秒	94分 11秒	193分 41秒
		320×240 (30コマ/秒)	36秒	3分 4秒	6分 7秒	12分 19秒	23分 42秒	48分 13秒	99分 8秒



メモ

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間目安です。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 液晶モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

別売り品について

Caplio R7では、下記の別売り品が使用できます。

商品名	型名	備考
リチャージャブル バッテリー	DB-70	本カメラで使用できる充電電池です。
バッテリーチャージャー	BJ-7	リチャージャブルバッテリー（DB-70）を充電するための充電器です。
ソフトケース	SC-70 SC-70R	本カメラのケースです。

電源オフで設定値が初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。

次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○ 初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
撮影	画質・サイズ	○	N3264 (8M)
	フォーカス	○	マルチAF
	測光方式	○	マルチ
	シャープネス	○	標準
	連写	×	OFF
	色の濃さ	○	普通
	オートブラケット	×	OFF
	長時間露光	○	OFF
	インターバル撮影	×	0秒
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	AUTO
	ISO感度	○	AUTO
	スローシャッター速度制限	○	1/8秒
	手ブレ補正	○	ON
	デュアルサイズ記録	○	OFF
	マクロ	×	マクロ オフ
	フラッシュ	○	発光禁止
	セルフタイマー	×	セルフ オフ
	最大輝度	○	—
	文字濃度	○	標準
	サイズ (文字)	○	2048 (3M)
	動画サイズ	○	640
フレームレート	○	30コマ/秒	
再生	音量	○	—

設定値の保持：○ 初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
セットアップ	LCD輝度調節	○	—
	マイセッティング登録	○	—
	ズーム設定	○	高速ズーム
	ISO AUTO-HI 設定	○	AUTO400
	サブファイルサイズ	○	320 [QVGA]
	オートパワーオフ	○	1分
	ブザー音	○	すべて
	操作音音量設定	○	中 (■ ■ □)
	画像確認時間	○	0.5秒
	デジタルズーム切替	○	通常
	ADJ.ボタン設定1	○	露出補正
	ADJ.ボタン設定2	○	ホワイトバランス
	ADJ.ボタン設定3	○	ISO
	ADJ.ボタン設定4	○	OFF
	AF補助光	○	ON
	撮影アイコン拡大	○	OFF
	CARD連続NO.	○	OFF
	日時設定	○	—
	Language / 言語	○	※
	ビデオ方式	○	※

※ 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

シーンモードについて

シーンモードの種類によっては、フラッシュ、マクロ撮影の設定が通常の撮影モードと異なる場合があります。下表を参照してください。

シーンモードの種類	フラッシュ	マクロ撮影
ポートレート	初期値：発光禁止	不可
フェイス	初期値：発光禁止	不可
スポーツ	初期値：発光禁止	不可
遠景	発光禁止に固定	不可
夜景	強制発光は選択不可	不可
	初期値：オート	
高感度	初期値：発光禁止	使用可
ズームマクロ	初期値：発光禁止	常時マクロ撮影
白黒	初期値：発光禁止	使用可
セピア	初期値：発光禁止	使用可
斜め補正	初期値：発光禁止	使用可
文字	初期値：発光禁止	使用可
動画	発光禁止に固定	使用可

シーンモードの撮影設定メニュー

設定項目	ムービーモード	フェイス	スポーツ	風景	夜景	高感度	ズームマクロ	白黒	セピア	斜め補正	文字	動画	参照先
画質・サイズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	P.67
文字濃度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	P.62
サイズ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	P.67
フレームレート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	P.97
フォーカス	○	—	○	—	○	○	○	○	○	○	—	○	P.69
測光方式	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	P.72
シャープネス	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	P.73
連写	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	P.74
色の濃さ	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	P.78
オートブラケット	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	P.79
長時間露光	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	P.83
日付入れ撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	P.86
露出補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	P.87
ホワイトバランス	○	—	○	○	○	○	○	—	—	○	—	○	P.88
ISO感度	—	○	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	P.90
スローシャッター 速度制限	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	P.92
手ブレ補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	P.93
デュアルサイズ記録	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	P.94

○ 設定可能 — 設定不可
各項目の選択肢については、P.64を参照してください。

海外でお使いのときは

バッテリーチャージャー（型名：BJ-7）について

交流100～240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。
付属のAVケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや液晶モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 液晶モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなる場合があります。
- 液晶モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 液晶モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。



結露の発生しやすい状態-----

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 液晶モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 液晶モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナーを、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。

高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所

砂、ほこり、ちりの多い場所

振動の激しいところ

防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ

強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）

- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

- (1) 必ず電源をオフにしてください。
- (2) 電池を取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
 2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
 - ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。
 - ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
 - ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧等による故障。
 - ④ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障。
 - ⑤ 浸（冠）水、飲物（ジュース、酒類等）かぶり、砂（泥）入り、衝撃、落下、圧力等による自然故障以外の故障。
 3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
 4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
 5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
 6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
 7. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
 8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
 - * 以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
 - * 以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。
 9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
 10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。
- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
 - 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
 - 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
 - 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
 - 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださいとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
 - 修理にお出しになった場合、メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

索引

記号・英数字

3コマ表示	48
Acrobat Reader	155, 160
ADJ.ボタン	15, 60, 99
ADJ.ボタン設定1、2、3、4	144
AFターゲット移動	63
AF補助光	145
AF補助光/セルフタイマー ランプ	14
AVIファイル	96
AVケーブル	12, 117
AV出力端子	15, 117
Caplio Software CD-ROM	13, 153
Caplio Transfer Software	155, 163
CARDへコピー	112
CARD連続NO.	147
DISP.ボタン	15, 55
DPOF	113
Irodio Photo & Video Studio	154, 155, 165
ISO AUTO-HI 設定	136
ISO感度	90
Language/言語	150
LCD輝度調節	132
List Editor	154
MENU/OKボタン	15, 66, 100, 128
MODEボタン	15, 37, 39
M (メモリー逆戻り) 連写	74
PictBridge	119
POWER (電源) ボタン	14
RICOH Gate La	154
Ridoc Desk Navigator Lt	155, 161
SDHCメモリーカード	22
SDメモリーカード	21, 24, 47
S (ストリーム) 連写	74
USBケーブル	12, 120
USB端子	15, 120, 166

USBドライバー	154
WIAドライバー	154

あ

一覧表示	48
色の濃さ	78
印刷	119
インターバル撮影	84
液晶モニター	15, 17
エラーメッセージ	172
遠景	38
オート撮影モード	16, 30
オートパワーオフ	26, 138
オートフォーカス (AF)	69
オートブラケット	79
オートリサイズ	142

か

カードリーダー	168
階調補正	104
回転	102
拡大表示	50
画質・サイズ	67
画像確認時間	141
画像サイズ変更	103
カメラメモ	126
カラーブラケット (CL-BKT)	82
逆光撮影	87
記録可能枚数	182
クイックレビューボタン	15, 45
グリッドガイド表示	55
高感度	38
高速ズーム	135

さ

再生設定メニュー	100
再生ボタン	15, 46
再生モード	26, 46
削除	51
削除/セルフタイマーボタン	15, 44, 51
撮影アイコン拡大	146
撮影可能枚数	20
撮影設定初期化	95
撮影設定メニュー	64
サブファイルサイズ	137

三脚ネジ穴	15
シーンモード (SCENE)	16, 38
色調補正	105
シャープネス	73
シャッターボタン	14, 28
充電	23
初期化 [カード]	130
初期化 [内蔵メモリー]	131
白黒	38
シンクロモニターモード	55
ズーム	33
ズーム設定	135
ズームマクロ	38, 43
ズームレバー	15, 33
ステップズーム	135
スピーカー	14
スポーツ	38
スライドショー	111
スローシャッター速度制限	92
静止画モード	17, 18, 37, 38
セットアップメニュー	127
セピア	38
セルフタイマー	44
操作音音量設定	140
測光方式	72

た

ダイレクトプリント	119
長時間露光	83
帳票印刷	125
低速ズーム	135
デジタルズーム	33
デジタルズーム切替	142
手ブレ	29, 93
手ブレ補正	93
デュアルサイズ記録	94
電源 (DC入力) ケーブルカバー	15
電池	20
電池の残量表示	19
動画	39, 96
動画サイズ	67

な

内蔵メモリー	21, 47
斜め補正	39, 42, 106

日時設定	27, 149
------	---------

は

ハイライト表示	56
バッテリーチャージャー	12, 23
バッテリー/カードカバー	15, 24
ハンドストラップ	12
ヒストグラム表示	57
日付入れ撮影	86
ビデオ方式	151
ファイル復元	116
フェイス	38, 41
フォーカス	69
ブザー音	139
フラッシュ	35
フラッシュ発光部	14
フラッシュボタン	15, 35
フレームレート	97
プロテクト	108
ポートレート	38
ホワイトバランス	88
ホワイトバランスブラケット (WB-BKT)	80

ま

マイク	14
マイセッティング登録	133
マイセッティングモード (MY)	16, 37
マクロボタン	15, 34
マニュアルフォーカス (MF)	70
モード切替スイッチ	15, 16
文字	39
文字濃度	62

や

夜景	38
----	----

ら

リチャージャブルバッテリー	12, 20, 23, 24
連写	74
レンズ	14
レンズカバー	14
露出補正	87

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

* 本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第2項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

* 各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

* 本サービスは、日本国内のみ有効です。

修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。

<http://www.rioh.co.jp/dc/support/repair/>

●たくはいサービス●

着払い宅配便にてお送りいただくサービスです。

●ひきとりサービス●

運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。ひきとり料金（2000円）がかかりますので、予めご了承ください。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10：00～20：00までの間で、時間帯区切りは2時間です。

1)10：00～12：00 2)12：00～14：00 3)14：00～16：00

4)16：00～18：00 5)18：00～20：00

*リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

●持ち込み修理について●

お買い上げのご販売店、カメラサービスセンター（裏表紙）のいずれかにお持ちいただいた場合も、修理の受付を行います。

お願い

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理箇所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出してください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談は巻末に記載のリコーお客様相談センターまでお願い申し上げます。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含まれる「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。



困ったときには

本書の「お困りのときは」(P.172)をご覧ください。問題が解決しないときには、「リコーお客様相談センター」にご連絡ください。

リコーお客様相談センター



電話0120-000475 FAX 0120-479417

受付時間：9:00～18:00（土、日、祝日を除く）

※なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音させていただいております。

インターネットでもサポート情報をご提供しています。

<http://www.ricoh.co.jp/dc/support/>

デジタルカメラ修理受付

リコー修理受付センター
(リコーロジスティクス株式会社)



電話0120-053956

(携帯電話、PHSからの通話はできません)

受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）

宅配便を利用した修理品の受付センターです。

リコー銀座カメラサービスセンター
※持ち込み修理の受付です。

〒104-0061 東京都中央区銀座6-14-7（第3リコービル）

電話03-3543-4187

受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）

デジタルカメラサービスセンター
(リコーテクノシステムズ株式会社)
※持ち込み修理の受付です。

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1

(新横浜ファーストビル3階)

電話045-474-2586

受付時間：9:30～18:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）

修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。

<http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/>

Irodio Photo & Video Studioについて

株式会社ピクセラ
ユーザーサポートセンター

電話06-6633-3900

受付時間：月曜日～日曜日10:00～17:00

(年末年始、祝日、弊社指定休日は除く)

株式会社リコー

〒104-8222

東京都中央区銀座8-13-1 リコービル

電話：0120-000475（フリーダイヤル）

2007年9月



* L 7 4 2 1 9 7 1 B *

Jp

JA Printed in China